令和８年度

全国学力・学習状況調査

本県の結果と分析

令和８年１１月１３日

青森県教育庁学校教育課

令和８年度全国学力･学習状況調査 本県の結果と分析

目　　次

Ⅰ 全体概要

1 調査の概要…………………………… 1

2 教科ごとの状況……………………… 2

3 質問調査結果………………………… 3

（1）主体的･対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

（2）児童生徒のウェルビーイングに関する取組状況

Ⅱ 小学校

1 正答数………………………………… 9

2 正答率………………………………… 11

3 児童質問調査………………………… 13

4 学校質問調査………………………… 15

5 指導改善のポイント………………… 17

Ⅲ 中学校

1 正答数………………………………… 19

2 正答率………………………………… 22

3 生徒質問調査………………………… 25

4 学校質問調査………………………… 28

5 指導改善のポイント………………… 31

Ⅳ 質問調査

1 児童生徒質問調査…………………… 34

2 学校質問調査………………………… 39

＊　本報告書の活用に当たって　＊

本報告書は、本調査の結果を受けて、本県の学習指導上の課題を明らかにし、県内の各学校が今後とるべき対策の参考となる事柄を示すことを主なねらいとして作成したものです。

本報告書の活用に当たっては、各教科･科目の結果だけでなく、質問調査の結果についても、自校の結果と比較しながら、今後の指導の改善に役立ててください。

本調査の結果の概要や正答数の分布、全ての小問の正答率等については、文部科学省から配布された『令和8年度全国学力･学習状況調査【小学校】又は【中学校】調査結果』（ダウンロード版）を参照してください。

国立教育政策研究所のホームページに、文部科学省の調査結果や報告書を踏まえた「授業アイデア例」が掲載されていますので、併せて活用ください。

なお、本報告書では、小学校又はこれに準ずる学校を「小学校」、中学校又はこれに準ずる学校を「中学校」とします。

また、県教育委員会ホームページ及び県総合学校教育センターホームページに、令和7年度までの全国学力･学習状況調査の結果を踏まえた「指導例」が掲載されていますので、右の二次元コードをぜひ活用ください。

令和8年度の「指導例」につきましては、12月中旬に掲載予定です。

指導改善のポイント

令和6･7年度

指導例

Ⅰ　全体概要

1　調査の概要

（1）調査実施日

令和８年４月23日（木）・・・・・・・・・・・・・・・・・・小学校国語、小学校算数、中学校国語、中学校数学

令和８年４月20日（月）～23日（木）・・・・・・・中学校英語「読むこと」、「書くこと」、「聞くこと」調査（CBTを用いたオンライン方式）
中学校生徒質問調査（オンライン方式）

令和８年４月24日（金）～5 月29日（金）・・・中学校英語「話すこと」調査（CBTを用いたオンライン方式）

令和８年４月24日（金）～5 月８日（金）・・・小学校児童質問調査（オンライン方式）

令和８年４月１日（水）～17日（金）・・・・・・・学校質問調査実施（オンライン方式）

（2）調査対象

小学校第6学年の全児童

中学校第3学年の全生徒

（3）調査内容（教科、質問調査）

① 教科　　小学校　国語（45分）　算数（45分）

中学校　国語（50分）　数学（50分）

英語「読むこと」、「書くこと」（50分）

英語「聞くこと」（「生徒質問調査」と併せて50分）

英語「話すこと」（20分）

② 質問（オンライン方式）　　児童生徒質問調査　　学校質問調査

（4）参加公立学校数

小学校参加校数　　本県　237校（全国　18,126校）

中学校参加校数　　本県　149校（全国　　9,249校）

（5）参加公立児童生徒数

小学校児童数　　7,936名【国語】（全国　922,411名）

7,935名【算数】（全国　922,778名）

中学校生徒数　　7,698名【国語】（全国　841,873名）

7,698名【数学】（全国　842,491名）

7,350名【英語3技能】（全国　839,203名）

2 教科ごとの状況

○平均正答数・平均IRTスコア、平均正答率及び標準化得点

【平均正答数・平均IRTスコア】

		青森県（公立）	全国（公立）
小学校	国 語	7.9	7.9
	算 数	8.7	9.0

		青森県（公立）	全国（公立）
中学校	国 語	9.5	9.6
	数 学	8.8	9.1
	英 語	477	499

※英語は、全国（国公私立）での結果公表であった。

【平均正答率】　※都道府県は、整数値での結果公表であった。

		青森県（公立）	全国（公立）
小学校	国 語	60	60.9
	算 数	55	56.4

		青森県（公立）	全国（公立）
中学校	国 語	63	63.9
	数 学	55	57.0
	英 語		

【標準化得点】

※ 標準化得点とは、全国（公立）の平均正答数を 100 とした時の本県（公立）の平均正答数である。中学校英語は、全国（国公私立）の平均IRTスコアを 100 とした時の本県（公立）の平均IRTスコアである。

		青森県（公立）	全国（公立）
小学校	国 語	100	100
	算 数	97	100

		青森県（公立）	全国（公立）
中学校	国 語	99	100
	数 学	97	100
	英 語	96	100

※英語は、全国（国公私立）での結果公表であった。

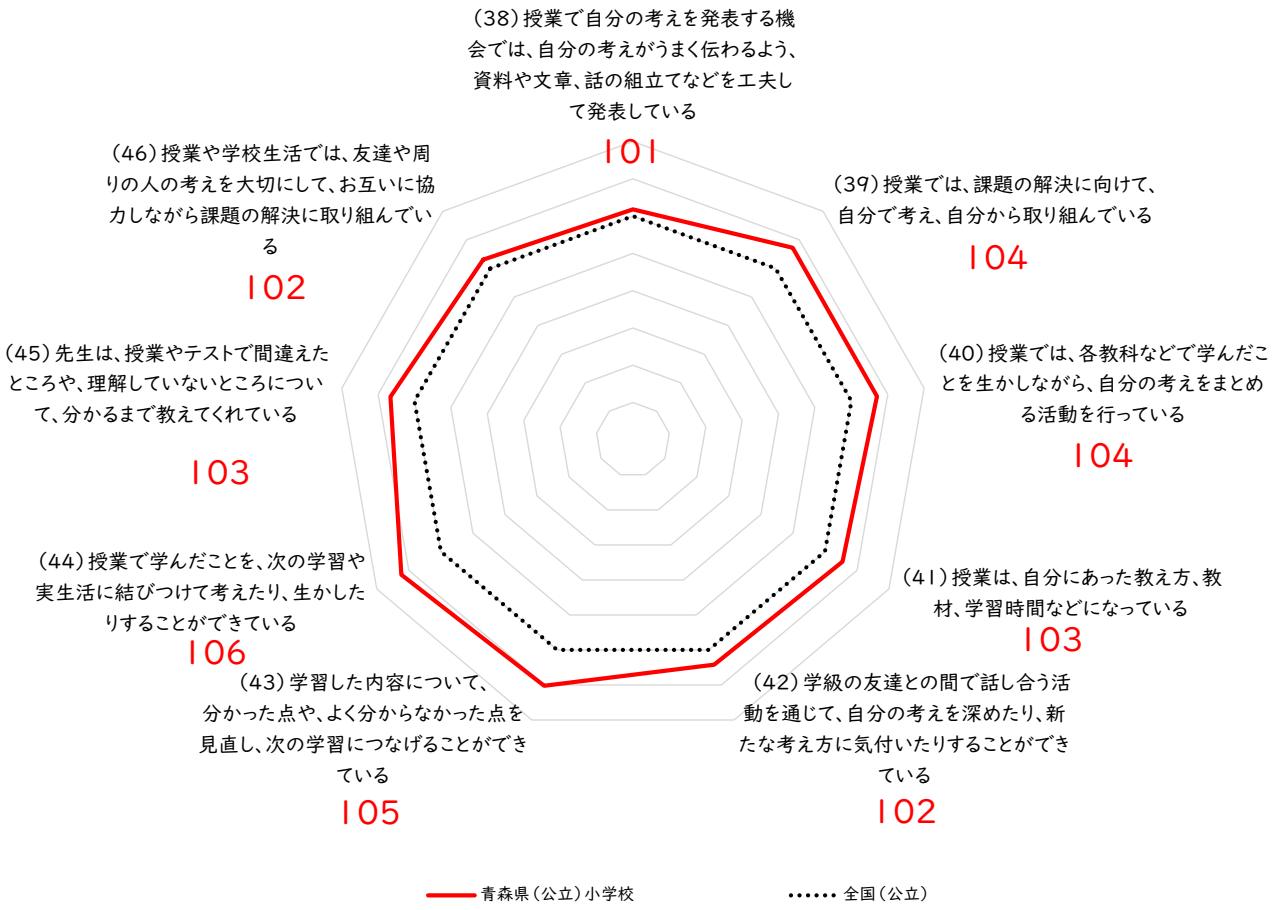
・本県公立小・中学校の国語及び算数・数学の平均正答数は、全国と比べ、±0.0～0.3 である。中学校英語の平均IRTスコアは、全国と比べ、−22 である。
・標準化得点では、全国の平均正答数と比べ、本県は、±0～4 である。

○県教育委員会としては、今回の調査結果を全国と同程度と捉えている。

3 質問調査結果

(1) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

①小学校(児童質問調査)



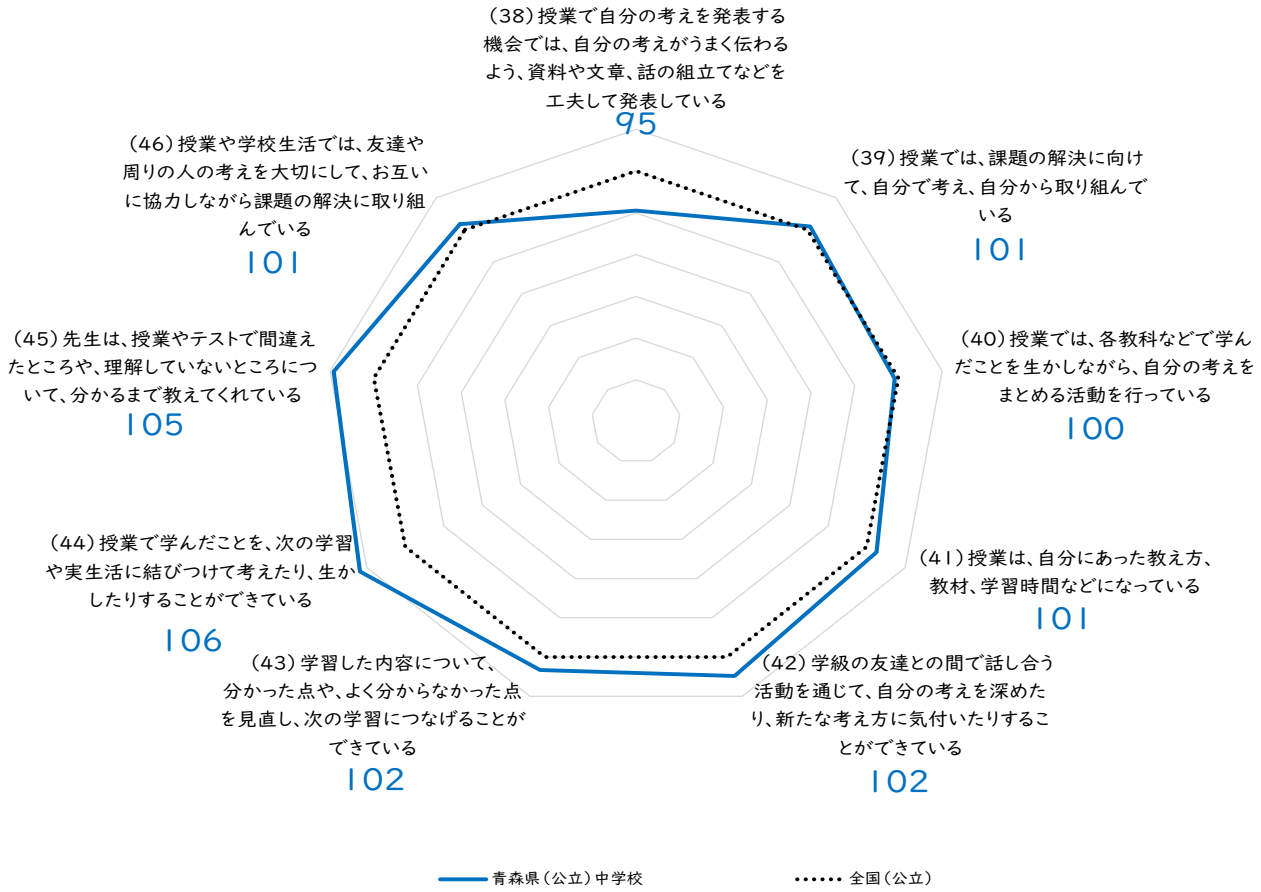
※数値は全国(公立)を100とした青森県(公立)小学校及び中学校の肯定的回答の割合である。本県の肯定的回答数÷全国の肯定的回答数×100で計算している。(以下同様)

・全ての項目で肯定的回答の割合が全国を上回っている。
・特に、(43)「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」、(44)「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができている」の割合が全国を大きく上回っている。

○本県小学校では、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善が進められていると考えられる。

（1）主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

②中学校（生徒質問調査）

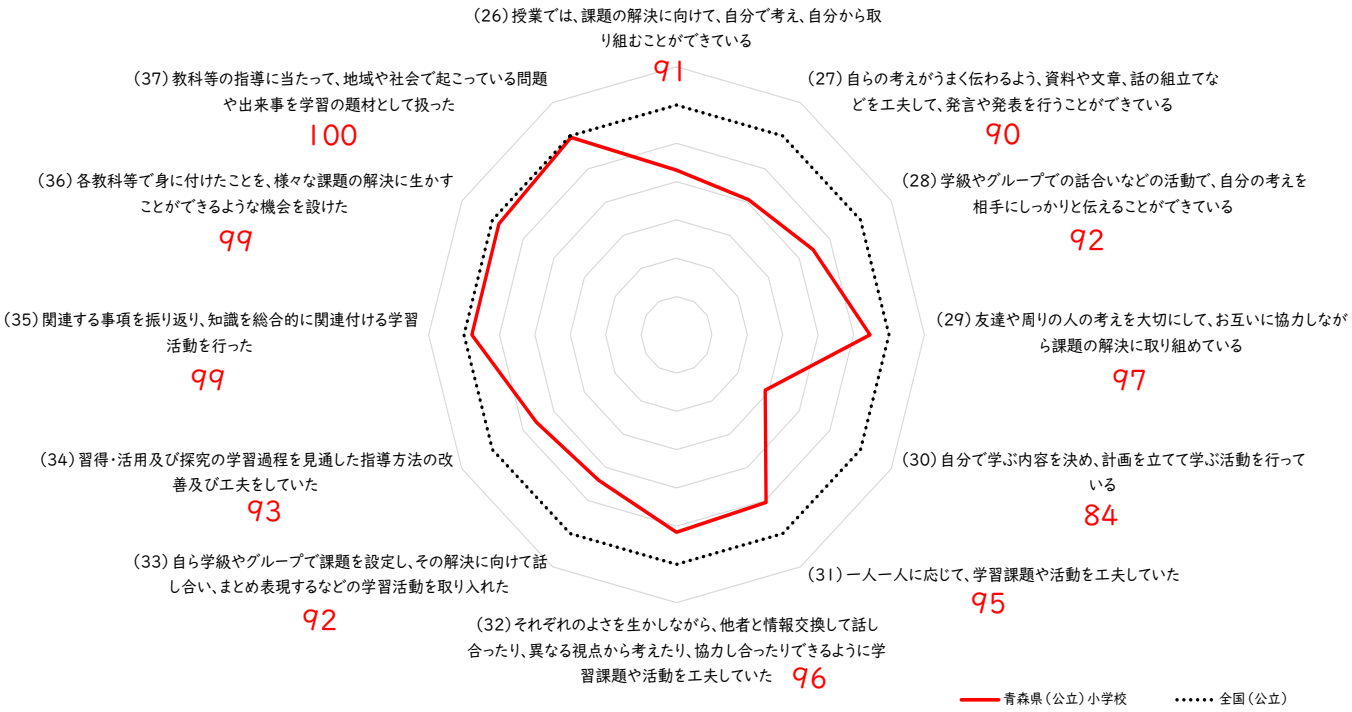


・概ね全ての項目で肯定的回答の割合が全国を上回っている。
・特に、（44）「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができている」、（45）「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれている」の割合が全国を大きく上回っている。
・（38）「授業で自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している」の割合は、全国を大きく下回っている。

○本県中学校では、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善が進められていると考えられる。

（1）主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

①小学校（学校質問調査）

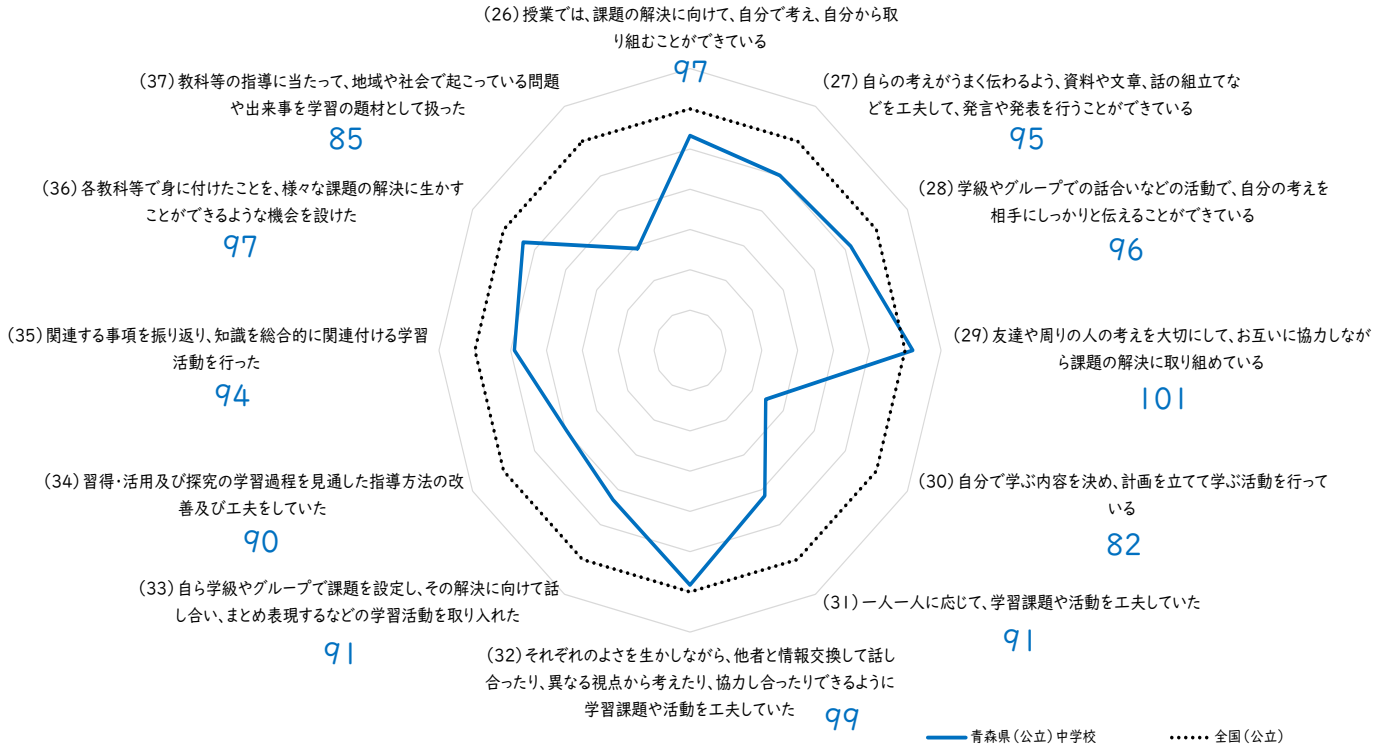


・(37)「教科等の指導に当たって、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として扱った」については、肯定的回答が全国と同じである。
・(26)、(27)、(28)、(30)、(31)、(33)、(34)については、肯定的回答の割合が全国を大きく下回っている。

○学校質問調査においては、全国を大きく下回っている項目が多い。下回っている項目の中には、各小学校は課題と捉えているが、児童は肯定的に捉えている項目が多く見られる。児童の肯定的な評価は、各学校の取組の成果と考えられる面もあるため、児童の肯定的な評価を踏まえ、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に、引き続き取組を続けていただきたい。

（1）主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

②中学校（学校質問調査）

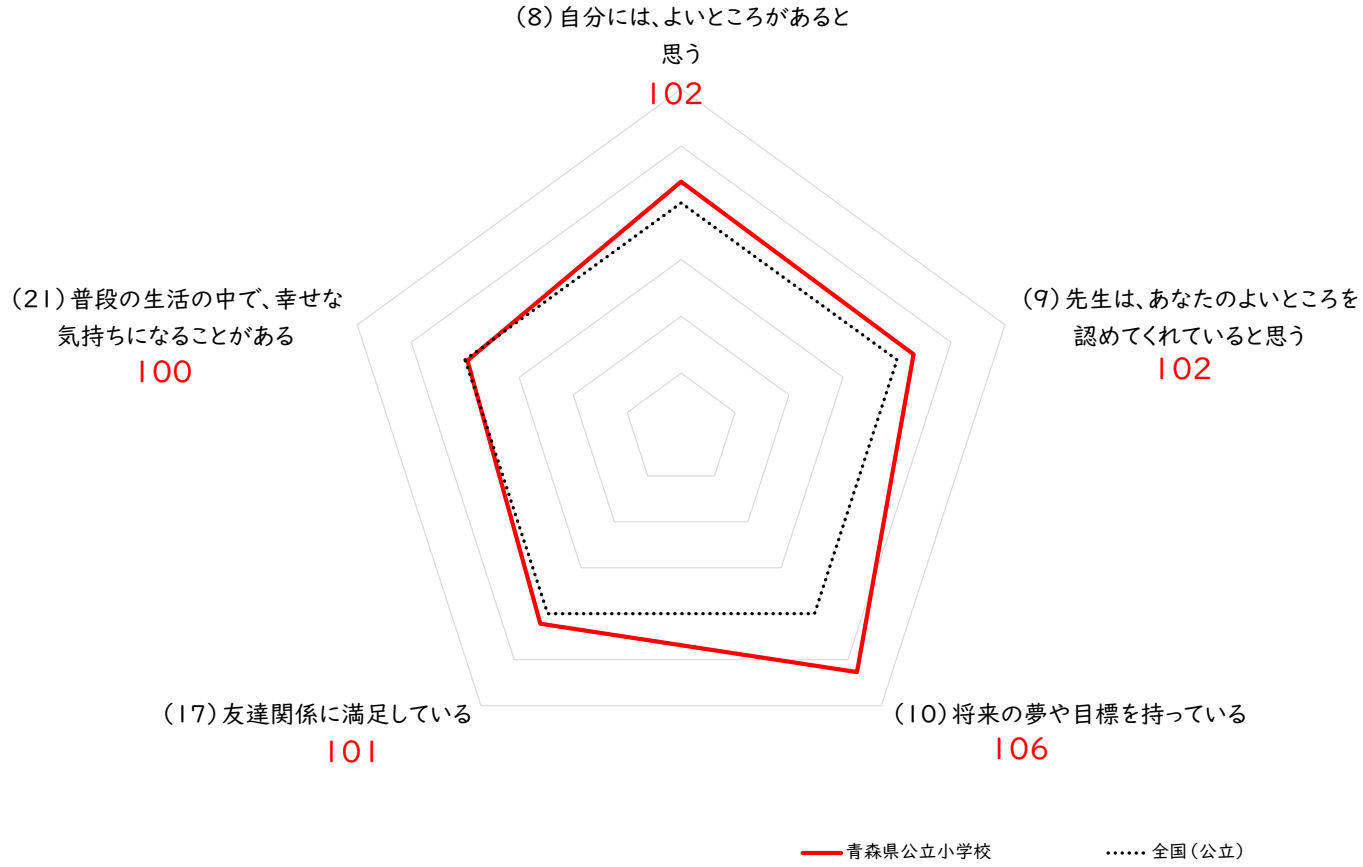


・（29）「友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組めている」については、肯定的割合が全国を上回っている。
・（27）、（30）、（31）、（33）、（34）、（35）、（37）については、肯定的回答の割合が全国を大きく下回っている。

〇学校質問調査においては、全国を大きく下回っている項目が多い。下回っている項目の中には、各中学校は課題と捉えているが、生徒は肯定的に捉えている項目が多く見られる。生徒の肯定的な評価は、各学校の取組の成果と考えられる面もあるため、生徒の肯定的な評価を踏まえ、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に、引き続き取組を続けていただきたい。

(2) 児童生徒のウェルビーイングに関する取組状況

①小学校（児童質問調査）

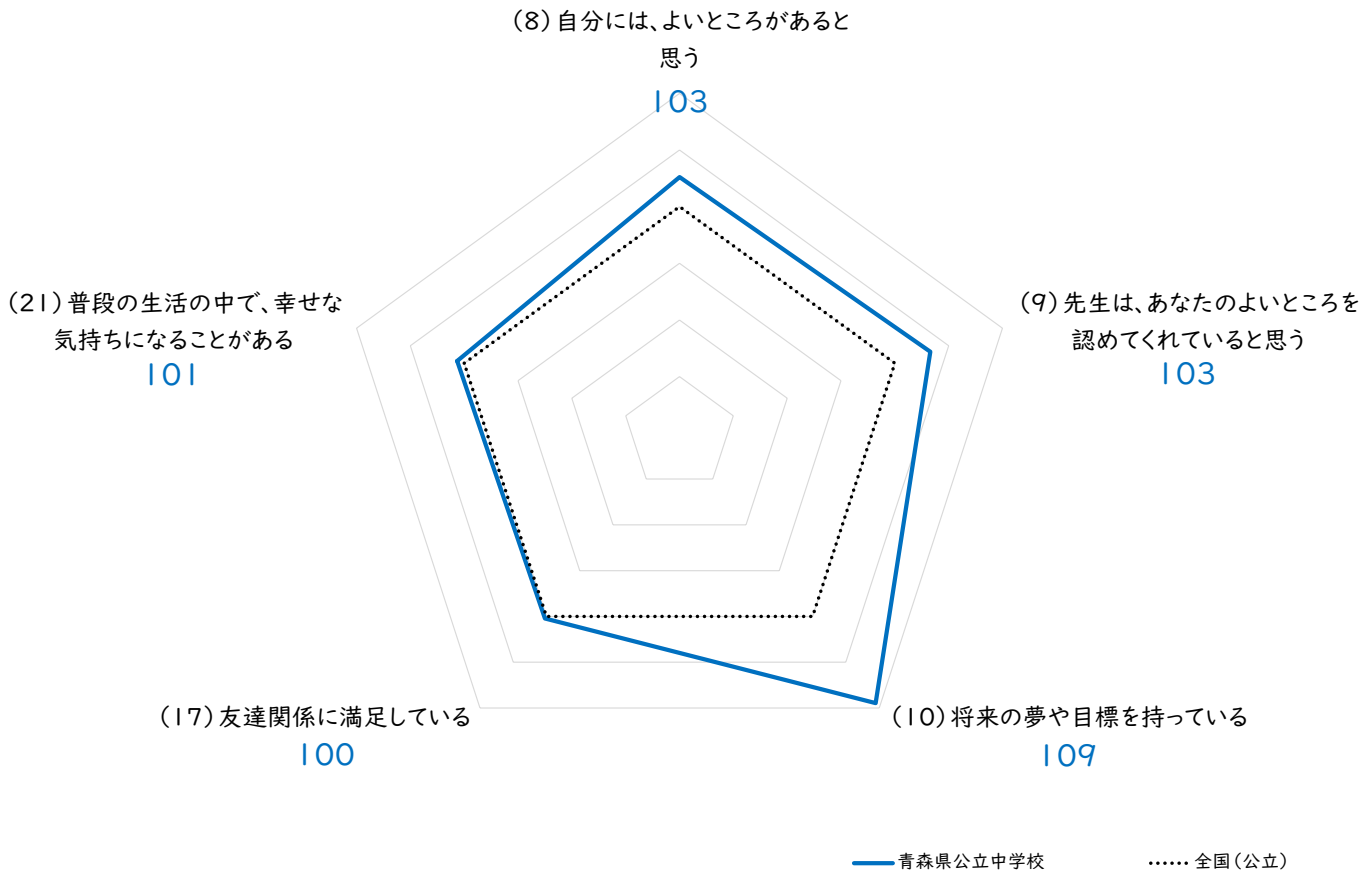


・(10)「将来の夢や目標を持っている」については、肯定的回答の割合が全国を大きく上回っている。
・(21)「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある」については、肯定的回答の割合が全国と同じである。それ以外の項目は、肯定的回答の割合が全国を上回っている。

○本県の教育施策の大綱にも掲載されているこどものウェルビーイングに関する状況は、昨年度に続き、概ね全国を上回る良好な状態にあり、学びに対する前向きな姿勢の表れであると捉えられる。引き続き、様々な教育活動を通じて、取組を続けていただきたい。

（2）児童生徒のウェルビーイングに関する取組状況

②中学校（生徒質問調査）



・（10）「将来の夢や目標を持っている」については、肯定的回答の割合が全国を大きく上回っている。
・（17）「友達関係に満足している」については、肯定的回答の割合が全国と同じである。それ以外の項目は、肯定的回答の割合が全国を上回っている。

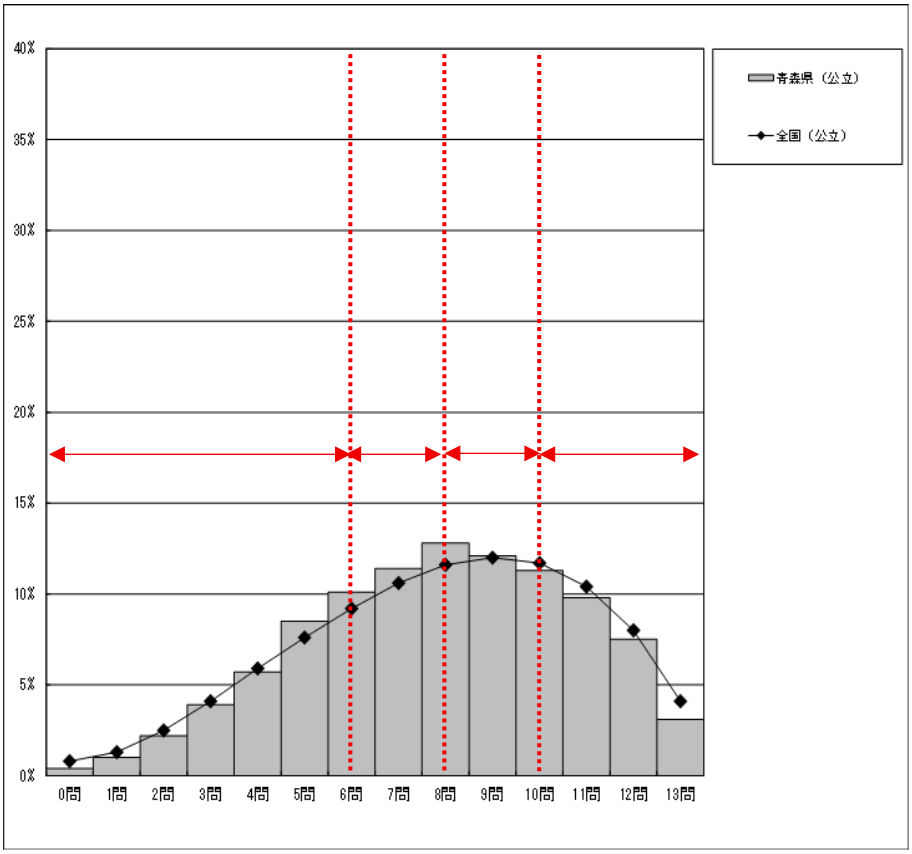
○本県の教育施策の大綱にも掲載されているこどものウェルビーイングに関する状況は、昨年度に続き、概ね全国を上回る良好な状態にあり、学びに対する前向きな姿勢の表れであると捉えている。引き続き、様々な教育活動を通じて、取組を続けていただきたい。

Ⅱ 小学校

Ⅰ 正答数

①国語

・正答数分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）



・正答数集計値

正答数	青森県(%)	全国(%)
13問	3.1	4.1
12問	7.5	8.0
11問	9.8	10.4
10問	11.3	11.7
9問	12.1	12.0
8問	12.8	11.6
7問	11.4	10.6
6問	10.1	9.2
5問	8.5	7.6
4問	5.7	5.9
3問	3.9	4.1
2問	2.2	2.5
1問	1.0	1.3
0問	0.4	0.8

・四分位

	青森県（公立）	全国（公立）
第3四分位	10.0問	10.0問
第2四分位	8.0問	8.0問
第1四分位	6.0問	6.0問

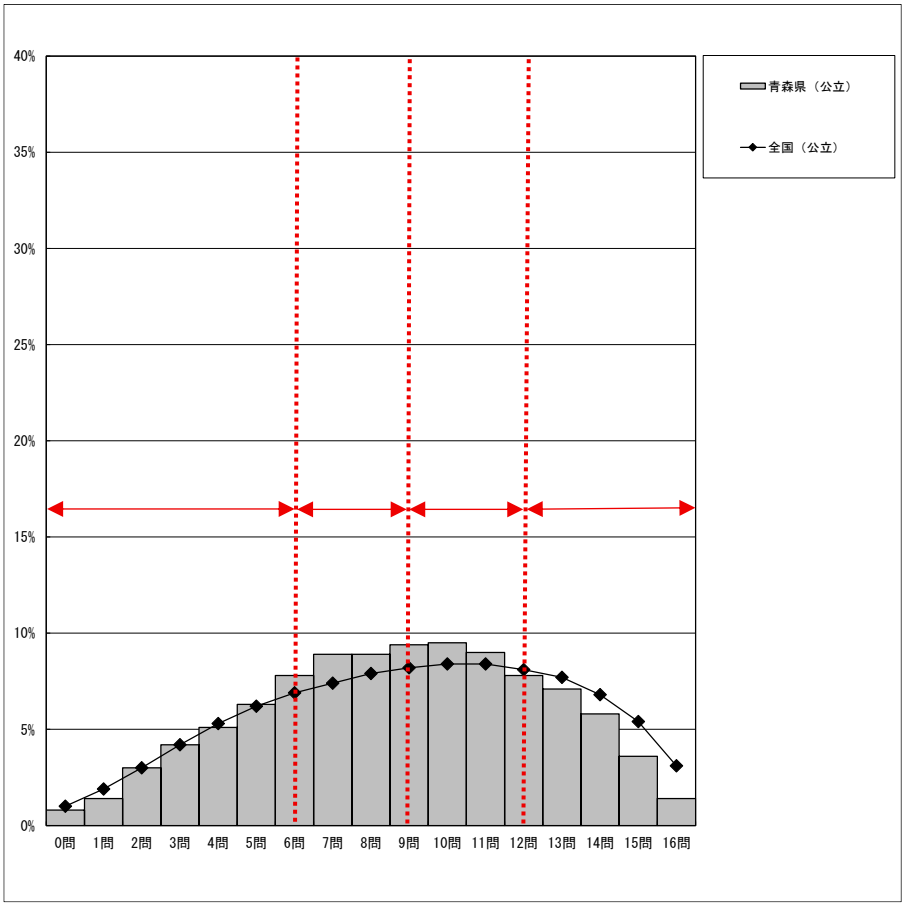
【ミニ解説】四分位（しぶんい）とは？
・データを小さい順に並べたとき、全体を4等分する（25%ずつ）3つの区切りのことです。
・データの散らばり具合を知るために使います。
第3四分位 下から75%の位置
第2四分位 50%の位置（中央値）
第1四分位 下から25%の位置

□正答数分布グラフ・正答数集計値
・正答数10問以上の割合はいずれも全国を下回っている。
・正答数5問～9問の割合はいずれも全国を上回っている。
・正答数4問以下の割合はいずれも全国を下回っている。
□四分位表
・第1四分位、第2四分位、第3四分位とも全国と同じである。

○本県は、全国に比べて正答数0問～4問の割合が少なく、正答数5問～9問の割合が高いことから、中位層の児童への学習指導が充実していることが考えられる。今後は、上位層の児童への学習指導をさらに充実させていくことが必要と考えられる。

②算数

・正答数分布グラフ（横軸：正答数　縦軸：割合）



・正答数集計値

	青森県%	全国%
16問	1.4	3.1
15問	3.6	5.4
14問	5.8	6.8
13問	7.1	7.7
12問	7.8	8.1
11問	9.0	8.4
10問	9.5	8.4
9問	9.4	8.2
8問	8.9	7.9
7問	8.9	7.4
6問	7.8	6.9
5問	6.3	6.2
4問	5.1	5.3
3問	4.2	4.2
2問	3.0	3.0
1問	1.4	1.9
0問	0.8	1.0

・四分位

	青森県（公立）	全国（公立）
第3四分位	12.0問	12.0問
第2四分位	9.0問	9.0問
第1四分位	6.0問	6.0問

【ミニ解説】四分位（しぶんい）とは？

・データを小さい順に並べたとき、全体を4等分する（25%ずつ）3つの区切りのことです。

・データの散らばり具合を知るために使います。

第3四分位　下から75%の位置

第2四分位　50%の位置（中央値）

第1四分位　下から25%の位置

□正答数分布グラフ・正答数集計値・四分位表

・各層の区分基準となる四分位は、第1四分位、第2四分位、第3四分位ともに全国と同数である。

・四分位に基づく各層の正答数集計値の各割合を全国と比較すると、下位層（第1四分位まで）及び上位層（第3四分位から）の各割合は概ね全国を下回っている。

・中下位層（第1四分位から中央値まで）及び中上位層（中央値から第3四分位まで）からなる中位層の各割合は概ね全国を上回っている。

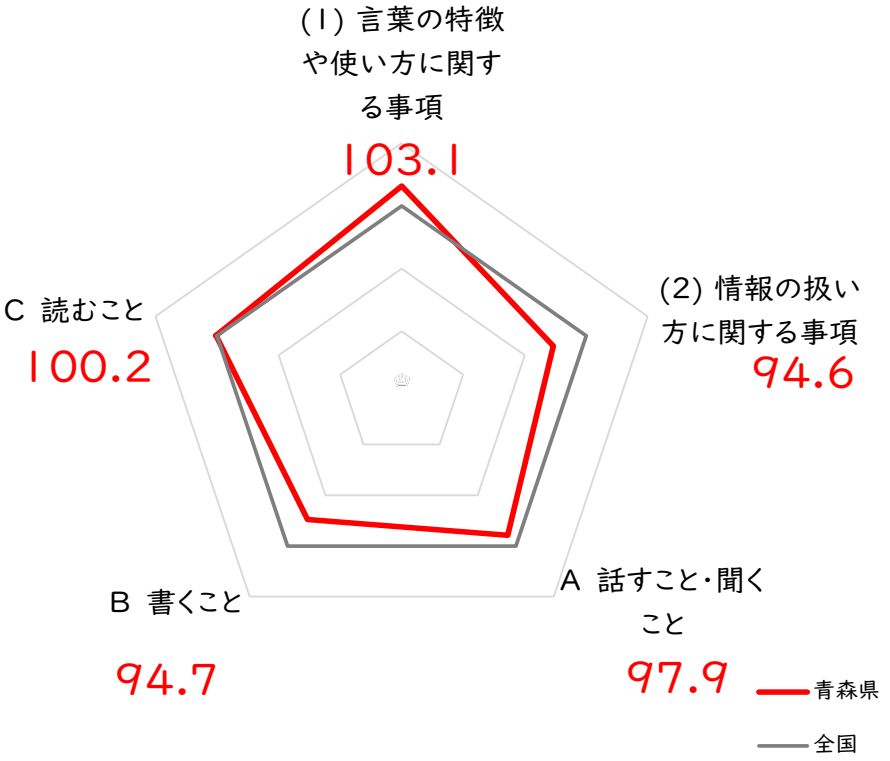
○下位層の割合が低く、中位層に厚みがあることから、各校においてつまずきのある児童への支援や基礎・基本の定着に向けた丁寧な指導が着実に実を結んでいると捉えられる。

○上位層の割合を高めていくため、厚みのある中位層の課題を各校・各学級で分析し、課題解決に向けた手立てを講じることで、児童一人一人の「主体的・対話的で深い学び」を実現できる授業改善を図ることが大切と考えられる。

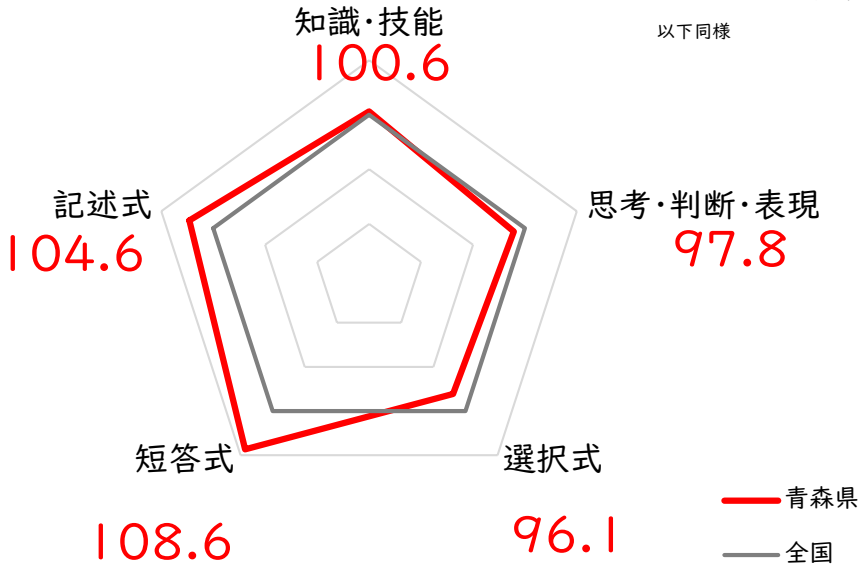
2 正答率

①学習指導要領の内容及び評価の観点、問題形式

（ア）国語

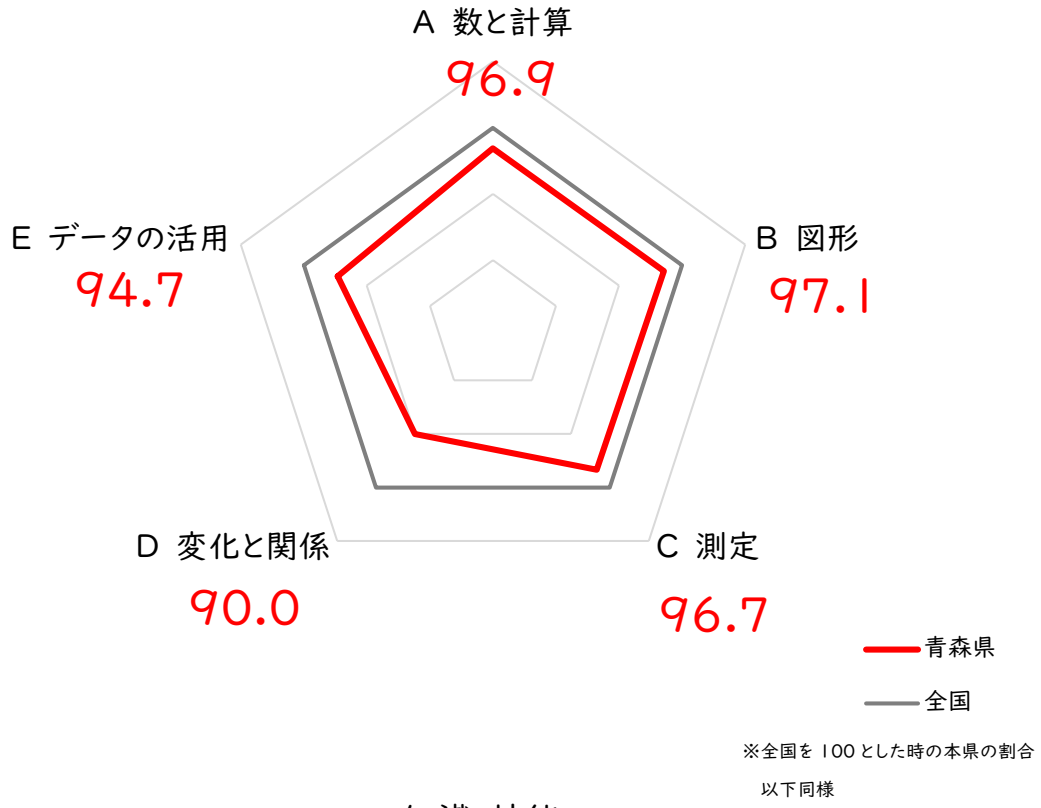


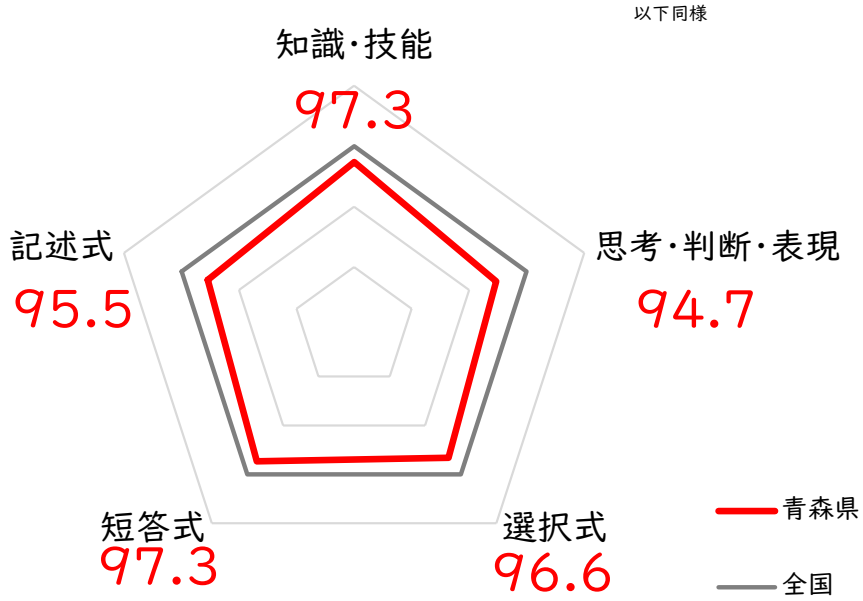
※全国を 100 とした時の本県の割合
以下同様



・内容別では、「A 話すこと・聞くこと」「B 書くこと」が全国を下回っている。「C 読むこと」が全国とほぼ同じである。(1)「言葉の特徴や使い方に関する事項」が全国を上回っている。一方で、(2)「情報の扱い方に関する事項」が全国を大きく下回っている。
・評価の観点別では、「知識・技能」の観点が全国を上回り、「思考・判断・表現」の観点が全国を下回っている。
・問題形式別では、「短答式」が全国を大きく上回り、「記述式」が全国を上回っている。一方で、「選択式」が全国を下回っている。

（イ）算数

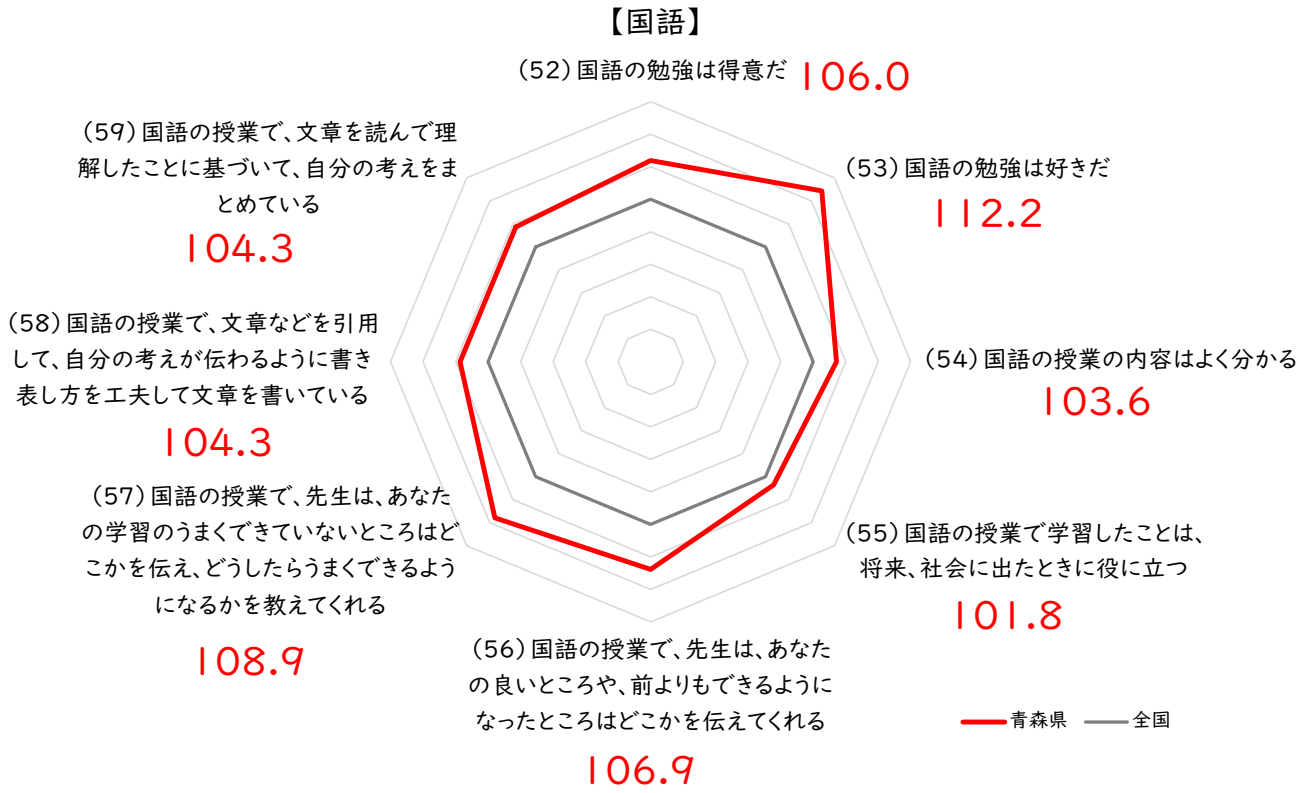




・領域別、観点別、問題形式別の正答率は、全ての項目で全国を下回っている。
・領域別では、特に「D 変化と関係」「E データの活用」が全国を大きく下回っている。
・観点別では、特に「思考・判断・表現」が全国を大きく下回っている。

○各校において、自校の課題分析を行い、課題解決に向けた授業改善の取組が必要と考えられる。
○特に課題が見られた「D 変化と関係」「E データの活用」等の領域で、問題解決の過程や理由を自らの言葉や式で筋道立てて説明・記述する活動を充実し、「思考・判断・表現」の育成と「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進していくことが大切と考えられる。

3 児童質問調査



【国語】
・全ての項目で肯定的回答の割合が全国を上回っている。
・特に、(52)「国語の勉強は得意だ」、(53)「国語の勉強は好きだ」については、肯定的回答の割合が大きく上回っている。
・国語の授業における教師の関わりに関する質問(56)(57)の割合については、全国を大きく上回っている。

○本県の児童の国語学習に対する意欲や授業の理解度等は概ね良好な状況と捉えられる。この結果から、教師が学習の状況を見取り、適切な支援や価値付けを行っていると考えられる。

【算数】

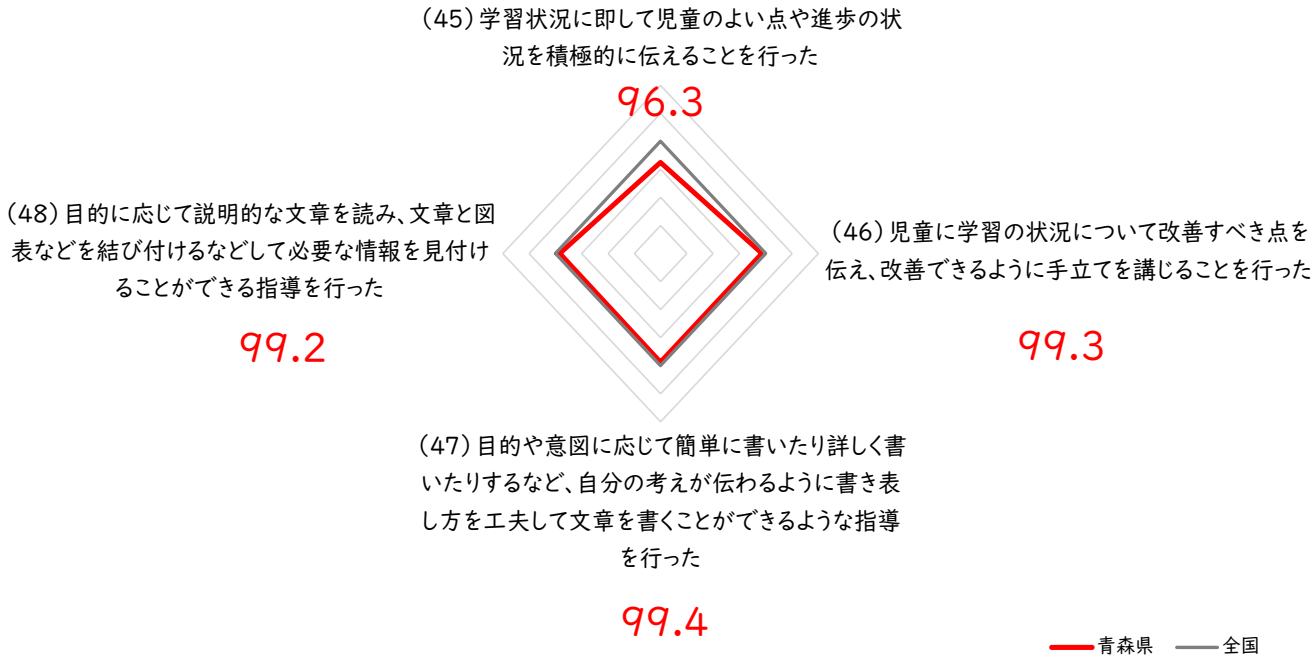


【算数】
・全ての項目で肯定的回答の割合が全国を上回っている。
・特に、(66)「算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っている」については、肯定的回答の割合が大きく上回っている。

○算数への意識や学習活動等についての肯定的回答は、各校における基礎・基本の定着や授業改善への取組の成果であり、学習への肯定的態度が形成されている状態と考えられる。
○指導に活かす評価によって高めた安心感や意欲を土台とし、多様な考えを練り合う対話的な学びの拡充を図り、統合的・発展的に思考する深い学びを推進していくことが大切と考えられる。

4 学校質問調査

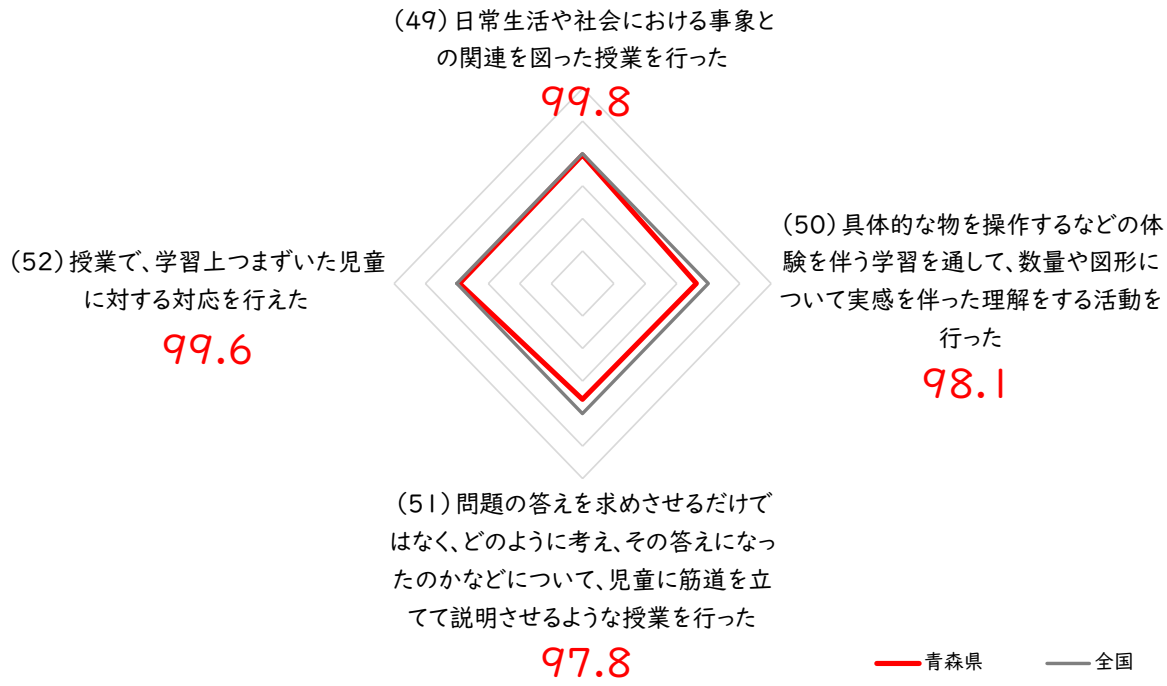
【国語】



【国語】
・全ての項目で肯定的回答の割合が全国を下回っている。
・(45)「学習状況に即して児童のよい点や進歩の状況を積極的に伝えることを行った」における学校質問調査の割合は全国を下回っているが、児童質問調査では上回っている。

○概ね全国と同程度と捉えられる。教師が行う学習状況の見取りや支援、価値付けが学習のねらいとしている資質・能力の育成につながるものになるよう、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に引き続き取組が必要と考えられる。

【算数】



【算数】
・全ての項目で肯定的回答の割合が全国を下回っている。
・(51)「問題の答えを求めさせるだけではなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、児童に筋道を立てて説明させるような授業を行った」における学校質問調査の割合は全国を下回っているが、児童質問調査では上回っている。

○具体物を操作するなどの体験を伴う学習をさらに充実させるとともに、結果だけでなく考え方や過程について、児童が筋道立てて説明し合う学習活動を一層展開し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取組を進めていくことが大切と考えられる。

5 指導改善のポイント

①国語

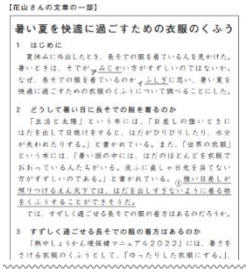
結果のポイント　B 書くこと〔思考力、判断力、表現力等〕
筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることに課題がある。

☞ 相手に分かりやすく伝わるように、伝えたいことや知らせたいことを明確にし、首尾一貫した展開となるよう、論の進め方に注意して組み立てた文章のこと

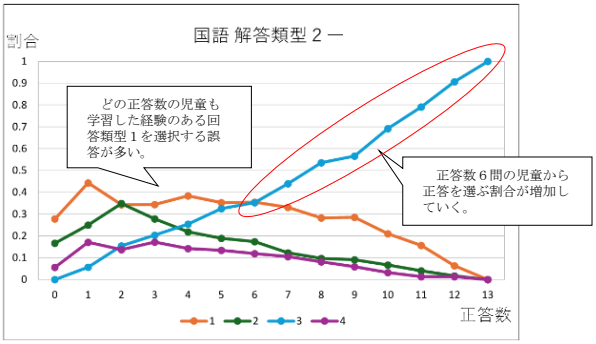
具体的な設問例 大問2一　「夏を快適に過ごすための工夫について報告する文章を書く」という言語活動の中で、花山さんの文章の工夫を説明したものとして適切なものを選ぶ問題

全国の「B 書くこと」の平均正答率は、学習指導要領の他の内容に比べて低く、本県でも同様の傾向である。また、大問2一は全国と比べて、平均正答率が4.7%低い状況にある。

花山さんは、読み手も一緒に考えて読むことができるように、疑問と調べて分かったこと、次の疑問を繰り返して書いている。しかし、誤答の児童はその文章の構成や展開を捉えられなかったと考えられる。中でも、解答類型1を選んだ児童は、調査を報告する文章の典型例として選択した可能性がある。


【花山さんの文章の一部】
暑い夏を快適に過ごすための衣服のくふう
1 はじめに
夏休みに外出したとき、長そでの服を着ている人を見かけた。暑いとき は、そ でが みじかい方がすずしいのではないか。なぜ、長そでの服を着ているのか、 ふしぎ に思い、暑い夏を快適に過ごすための衣服のくふうについて調べることにした。
2 どうして暑い日に長そでの服を着るのか
「生活で大得」という本には、「日差しの強いときにはだを出して日焼けすると、はだがひりひりしたり、水分が失われたりする。」と書かれている。また、「世界の衣服」という本には、「暑い国の中には、はだのほとんどを衣服でおおっている人たちがいる。真っ白 に 近い 長そで 日光を 通さない 方がすずしいのである。」と書かれている。 強い日差しが照りつける 夏 の 天気では、はだを 出して すずしい ように 着る 物を くふう することができそうだ。
では、すずしく過ごせる長そでの服の着方はあるのだろう。
3 すずしく過ごせる長そでの服の着方はあるのか
「熱中しょうかん 増保健マニュアル2022」には、暑さを さける 衣服の くふう として、「ゆったりした 衣服に する。」

解答類型		反応率(%) 本県(公立)	全国(公立)
1	調査の目的や手順、調査結果を順序立てて書いている。	26.7	25.2
2	結論を最初に述べ、それを支える事例を複数取り上げて書いている。	11.8	9.4
3（正答）	疑問と調べて分かったこと、次の疑問をくり返して書いている。	53.2	57.9
4	複数の事例の長所と短所を比べて書いている。	7.8	6.4
99	上記以外の解答	0.2	0.2
無解答		0.3	0.8



指導改善のポイント

筋道の通った文章にするためには、児童が「読み手にどのように読み進めてほしいか」という目的を明確にし、それにふさわしいつながりや配列を意識して文章全体の筋道を整えていくことが大切である。そのためには、どのようなつながりや配列があり、それぞれにどのような効果があるのかを、教師が整理しておくことが必要である。その上で、論の進め方が異なる複数の文章を読み比べ、それぞれの効果について整理し、目的に応じて選択して書く学習などが考えられる。

「筋道の通った文章」指導の系統性

- 第1学年及び第2学年
  「事柄の順序」
- 第3学年及び第4学年
  「書く内容の中心を明確に」
- 第5学年及び第6学年
  「つながりや配列を意識して文章全体の筋道を整える」
  例えば
  考えと理由や事例
  原因と結果
  疑問と解決　など

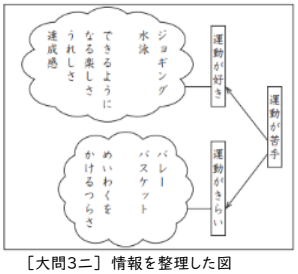


関連して☞ 情報の扱い方に関する事項〔知識及び技能〕

全国を下回っている問題

〔大問2ニ〕
・考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係について理解すること

〔大問3ニ〕
・情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと



〔大問3ニ〕情報を整理した図

	本県	全国
大問2ニ	47.8%	48.9%
大問3ニ	51.1%	55.6%

〔知識及び技能〕は〔思考力、判断力、表現力等〕の指導事項と関連を図り、年間を通じて複数回、意図的に指導し、児童が体験的に身に付けていけるようにすることが大切である。（参照：令和6年度、令和7年度指導例）

指導改善のポイント
令和6・7年度
指導例

②算数

結果のポイント

①**大問1（3）** 1㎤の立方体を36個使ってできた直方体の体積を書く問題
・体積の意味について理解することに課題（県正答率 34.2%）

②**大問2（4）** 赤いテープの長さが、白いテープの長さの1.5倍になっている図を選ぶ問題
・基準量、比較量、割合の関係を正しく捉えることに課題（県正答率28.8%）

③**大問4（3）** 二次元の表から、前半にあやとりに参加する人数と、前半はかるたに参加し、後半はあやとりに参加する人数を書く問題
・二次元の表から、条件に合う数を読み取ることに課題（県正答率12.8%）

1

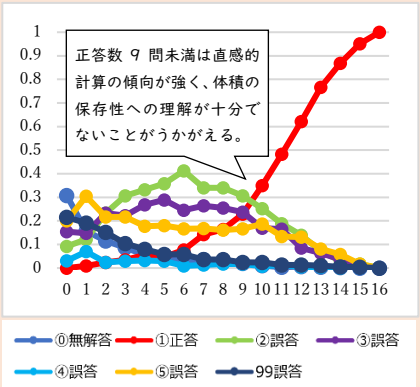
(3) 1 cm³ の立方体が 36 個あります。36 個をすべて使って、高さが 4 cm の直方体を 1 つ作りました。
その直方体の体積は何 cm³ ですか。
答えを書きましょう。

高さが4cmだから
36×4？

分析結果と課題
○体積の意味についての理解に課題。
○36や4を使った計算の答えなどを体積としている。

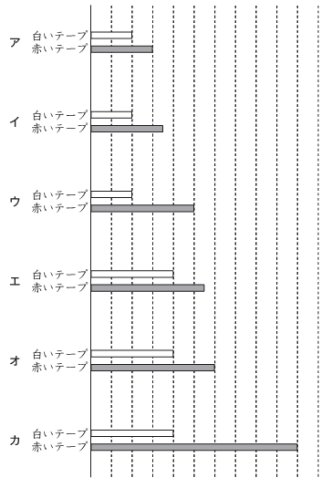
解答類型
①36（㎤）…34.2%
②144（㎤）…24.3%
③9（㎤）…18.3%
④4（㎤）…1.4%
⑤4の倍数（36、144、4以外）…14.9%

解答類型1（3） 児童の割合×正答数



2

(4) 赤いテープの長さが、白いテープの長さの 1.5 倍になっている図はどれですか。
下の ア から カ までの中から2つ選んで、その記号を書きましょう。



解答類型
①ア、オ…28.8%
②イ、エ…40.4%
③ウ、カ…10.7%
④ア、エ ア、カ…3.7%
⑤イ、オ ウ、オ…5.2%

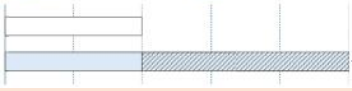
分析結果と課題
○示された基準量と割合から、比較量を捉えることに課題
○基準量の1.5倍に当たる比較量を1.5目盛り多い量や1.5倍分を合わせた量と捉えている。

○解答類型2
基準量の1.5倍に当たる比較量を1.5目盛り分多い量と捉える



1.5目盛りの差が1.5倍ということ？

○解答類型3
基準量の1.5倍に当たる比較量を1.5倍分を合わせた量と捉える



1.5倍だから合わせる？

4

(3) さくらさんたちは、前半と後半のあやとりやかるたに参加する 1 年生の人数を下の表にまとめました。

前半と後半の遊びごとの人数 （人）

		後半 あやとり	後半 かるた	合計
前半	あやとり	4	9	13
前半	かるた	8	7	15
合計		12	16	28

さくらさんたちは、あやとりに参加する 1 年生にひもをわたします。
わたすひもの本数を知るために、表からあやとりに参加する人数を調べると、次のことがわかります。

前半にあやとりに参加する人数は ㋐ 人です。
前半はかるたに参加し、後半はあやとりに参加する人数は ㋑ 人です。

上の㋐、㋑に入る数を、それぞれ書きましょう。

解答類型
①ア 13、イ 8…12.8%
②ア 13、イ 9… 0.9%
③ア 13、イ 類型1、2以外又は無解答… 26.9%
④ア 4又は9、イ 8…20.7%
⑤ア 4又は9、イ 9…6.4%
⑥ア 4又は9、イ 類型1、2以外又は無解答…17.9%

分析結果と課題
○二次元の表から、条件に合う数を読み取ることに課題
アを13……48.3%
イを8……39.0%
アを4又は9…42.2%

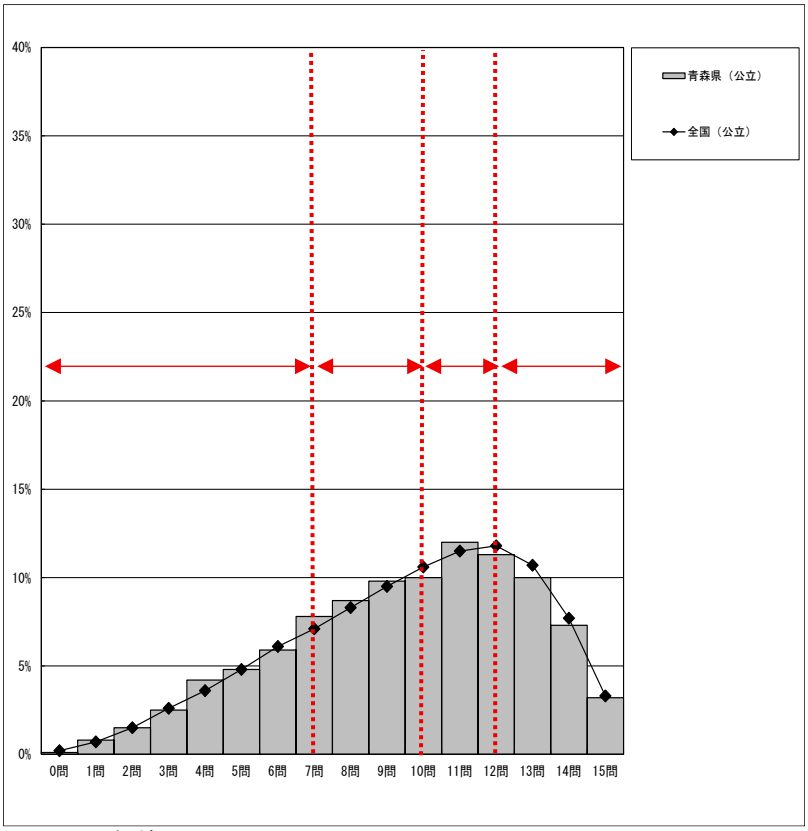
同じ遊びだけど前半、後半どっちの数？

Ⅲ 中学校

Ⅰ 正答数

①国語

・正答数分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）



正答数	青森県(%)	全国(%)
15問	3.2	3.3
14問	7.3	7.7
13問	10.0	10.7
12問	11.3	11.8
11問	12.0	11.5
10問	10.0	10.6
9問	9.8	9.5
8問	8.7	8.3
7問	7.8	7.1
6問	5.9	6.1
5問	4.8	4.8
4問	4.2	3.6
3問	2.5	2.6
2問	1.5	1.5
1問	0.8	0.7
0問	0.1	0.2

・四分位

	青森県（公立）	全国（公立）
第3四分位	12.0問	12.0問
第2四分位	10.0問	10.0問
第1四分位	7.0問	7.0問

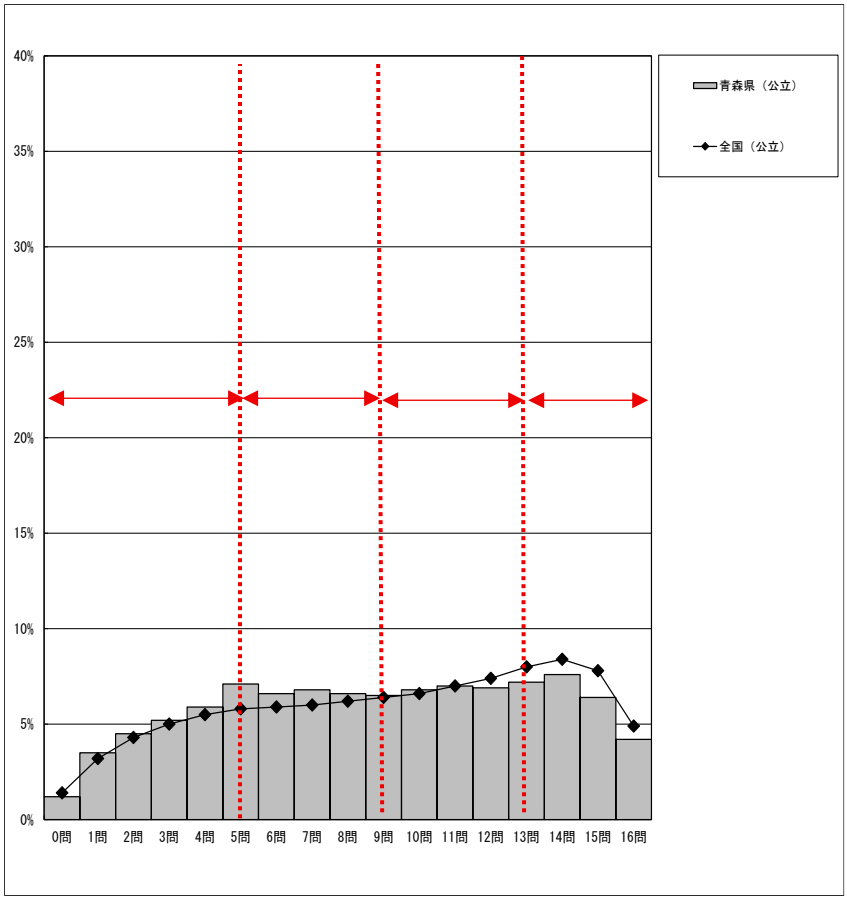
【ミニ解説】四分位（しぶんい）とは？
・データを小さい順に並べたとき、全体を4等分する（25%ずつ）3つの区切りのことです。
・データの散らばり具合を知るために使います。
第3四分位　下から75%の位置
第2四分位　50%の位置（中央値）
第1四分位　下から25%の位置

□正答数分布グラフ・表
・正答数10問以上の割合は、全国を下回っている。
・正答数9問以下の場合は、全国を上回っている。
□四分位表
・第1四分位、第２四分位、第3四分位とも、全国と同じである。

◯正答数の分布傾向は、全国と類似した状況と捉えられる。

②数学

・正答数分布グラフ（横軸：正答数　縦軸：割合）



正答数	青森県%	全国%
16問	4.2	4.9
15問	6.4	7.8
14問	7.6	8.4
13問	7.2	8.0
12問	6.9	7.4
11問	7.0	7.0
10問	6.8	6.6
9問	6.5	6.4
8問	6.6	6.2
7問	6.8	6.0
6問	6.6	5.9
5問	7.1	5.8
4問	5.9	5.5
3問	5.2	5.0
2問	4.5	4.3
1問	3.5	3.2
0問	1.2	1.4

・四分位

	青森県（公立）	全国（公立）
第3四分位	13.0問	13.0問
第2四分位	9.0問	10.0問
第1四分位	5.0問	5.0問

【ミニ解説】四分位（しぶんい）とは？

・データを小さい順に並べたとき、全体を4等分する（25%ずつ）3つの区切りのことです。

・データの散らばり具合を知るために使います。

第3四分位　下から75%の位置

第2四分位　50%の位置（中央値）

第1四分位　下から25%の位置

□正答数分布グラフ・表

・最頻値が14問であり、全国と同じである。

・正答数0問の割合は、全国を下回っている。

・正答数12問～16問の割合は、全国を下回っている。

・正答数1問～10問の割合は、全国を上回っている。

□四分位表

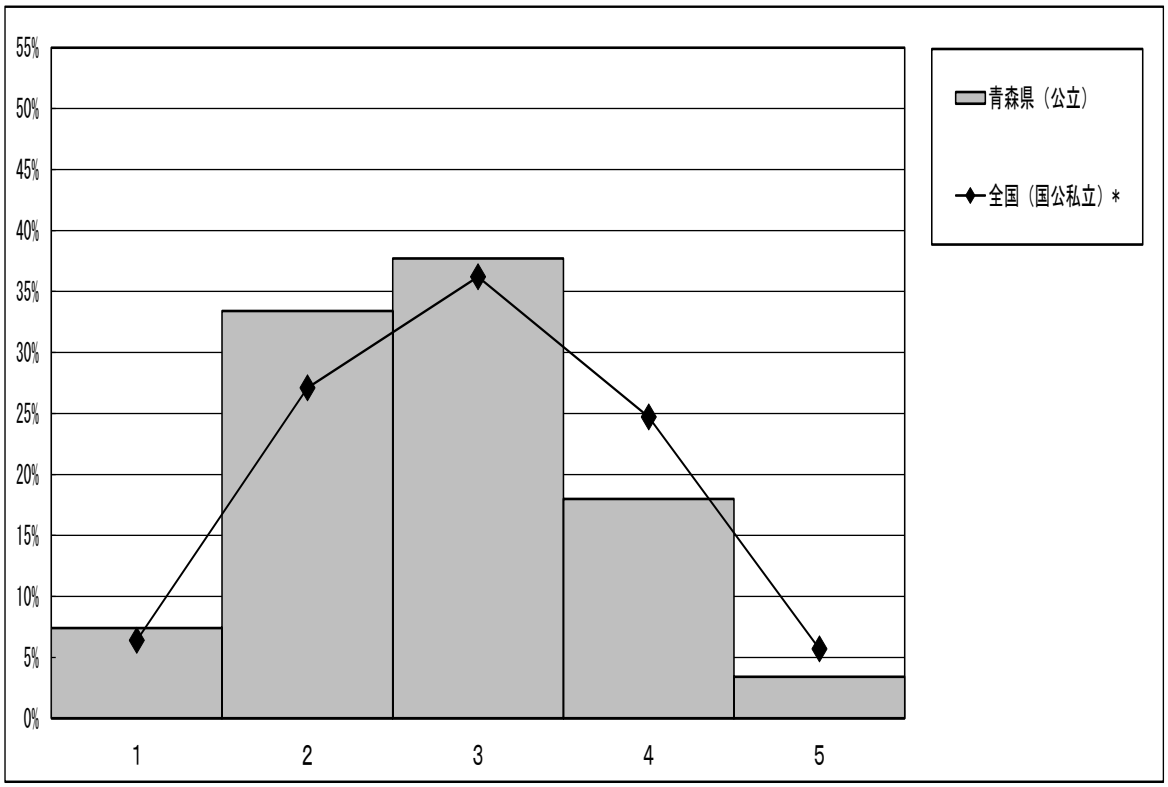
・第1四分位数と第3四分位数は、全国と同じである。

・第2四分位数（中央値）は、全国を下回っている。

○分布全体の様子から本県の正答数は、全国と類似した状況と捉えられる。

③英語（4技能）

・IRT バンド分布グラフ（横軸：IRT バンド 縦軸：割合）



IRTバンド集計値		
IRT バンド	割合(%)	
	青森県（公立）	全国（国公私立）
5	3.4	5.7
4	18.0	24.7
3	37.7	36.2
2	33.4	27.1
1	7.4	6.4

※「話すこと」は、全国（国公私立）での公表であったため、左のＩＲＴバンド集計値が全国（国公私立）となっている。

※昨年度から採用された IRT バンドは、IRT スコアを 1～5 の 5 段階に区切ったものである。
3を基準のバンドとし、5 が最も高いバンドとなる。

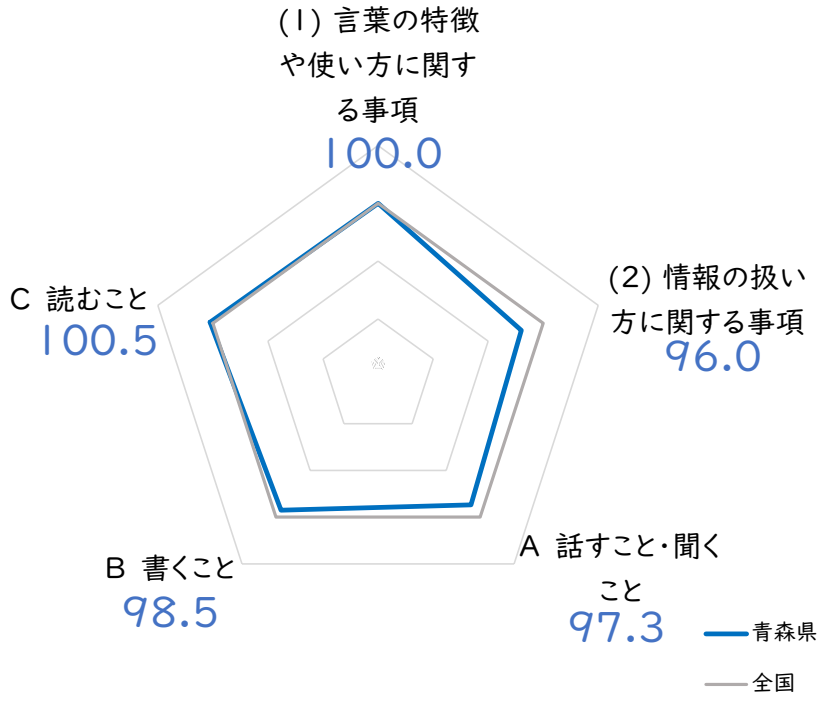
□IRT バンド分布グラフ・IRT バンド集計値
・IRT バンド1、2、3の割合は、全国を上回っている。
・IRT バンド4、5、の割合は、全国を下回っている。

○IRT バンドの分布の傾向は、全国と類似した状況と捉えられる。

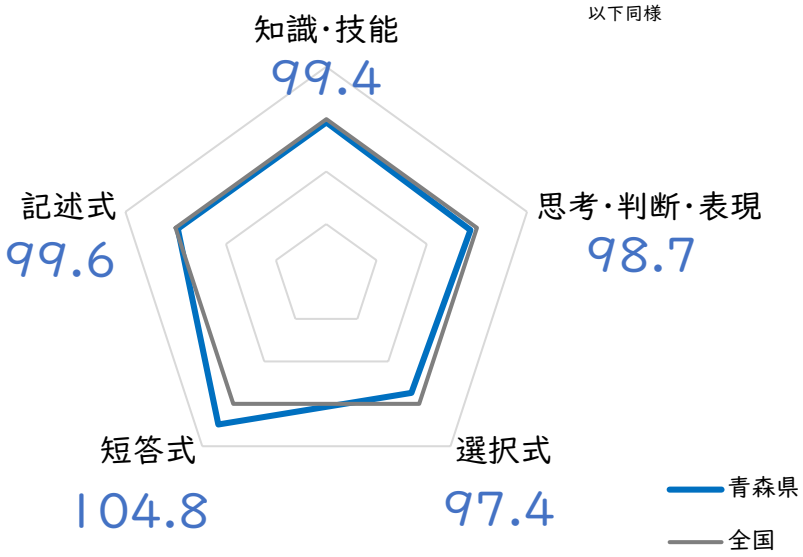
2 正答率

①学習指導要領の内容及び評価の観点、問題形式

(ア) 国語

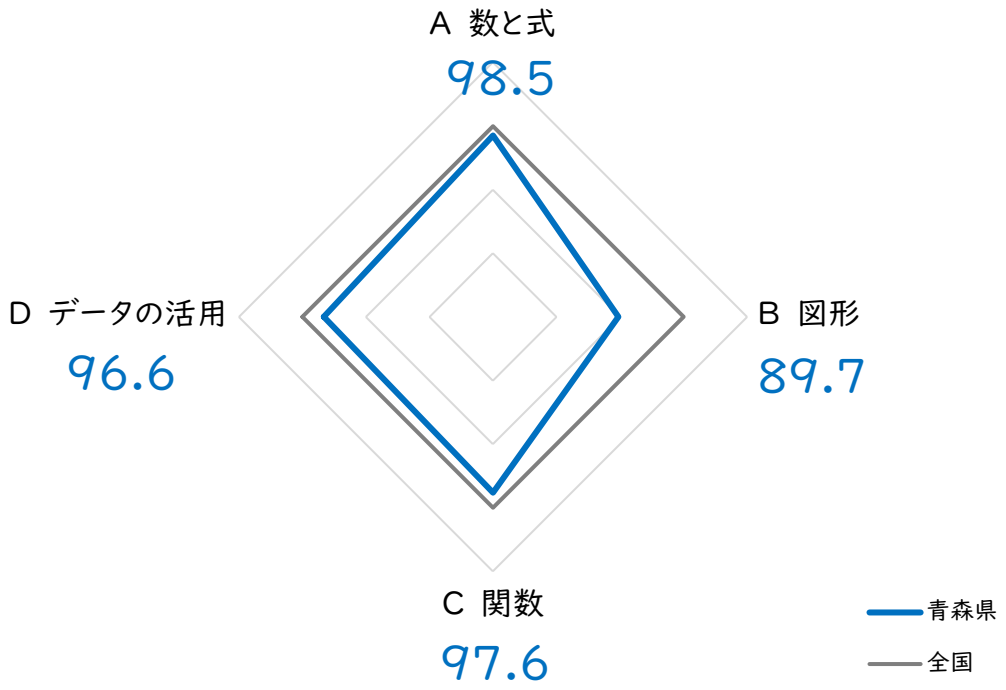


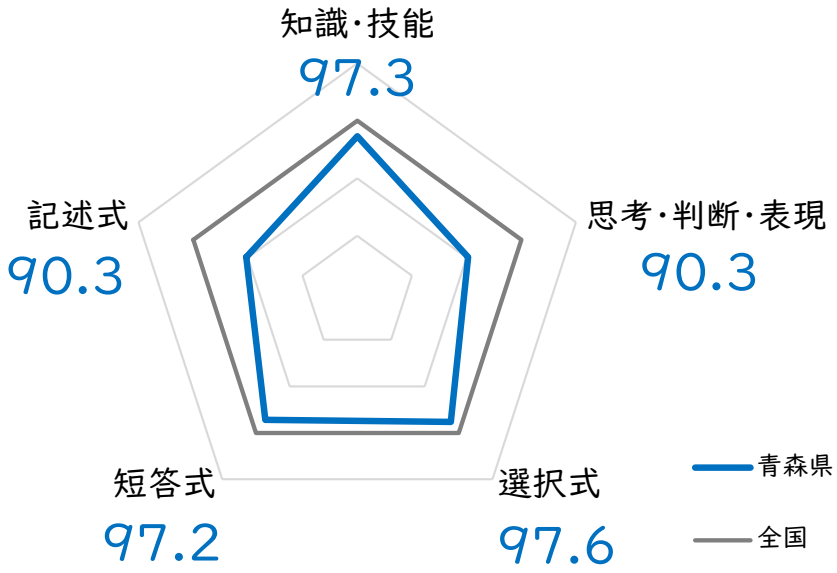
※全国を 100 とした時の本県の割合
以下同様



・内容別では、「C読むこと」が全国を上回っている。「(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項」が全国と同じである。「(2) 情報の扱い方に関する事項」、「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」が全国を下回っている。
・評価の観点別では、「知識・技能」「思考・判断・表現」ともに全国を下回っている。
・問題別形式では、「短答式」が全国を上回っている。

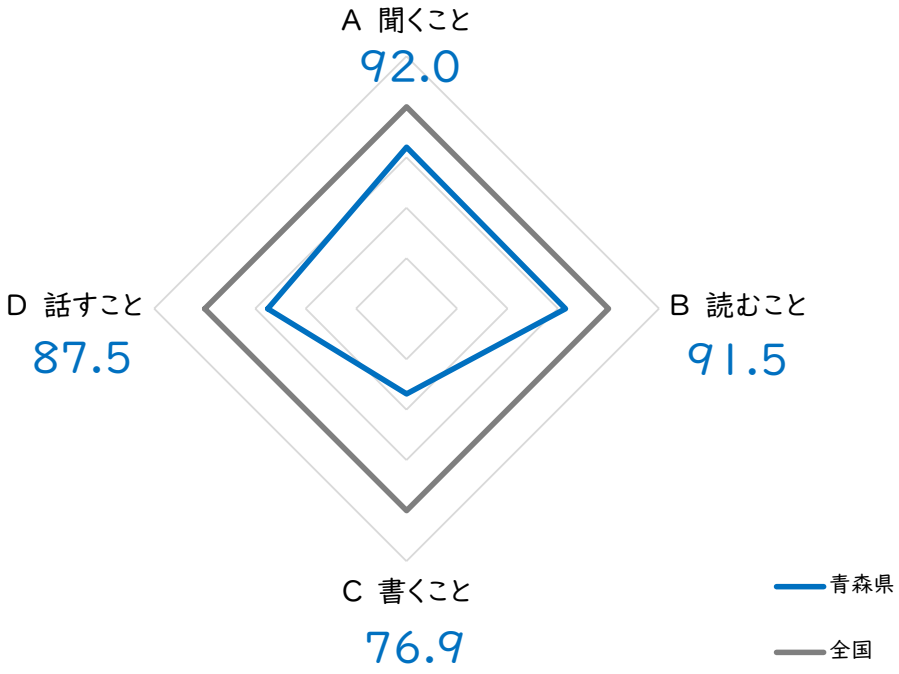
（イ）数学



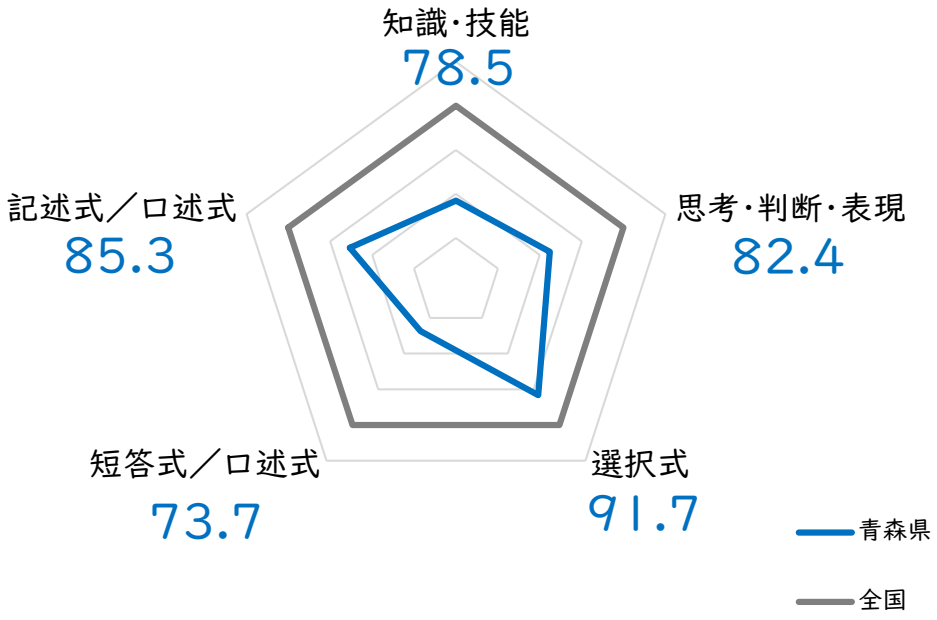


・領域別では、全ての項目で全国を下回っている。
・評価の観点別、問題形式別では、全ての項目で全国を下回っている。

（ウ）英語



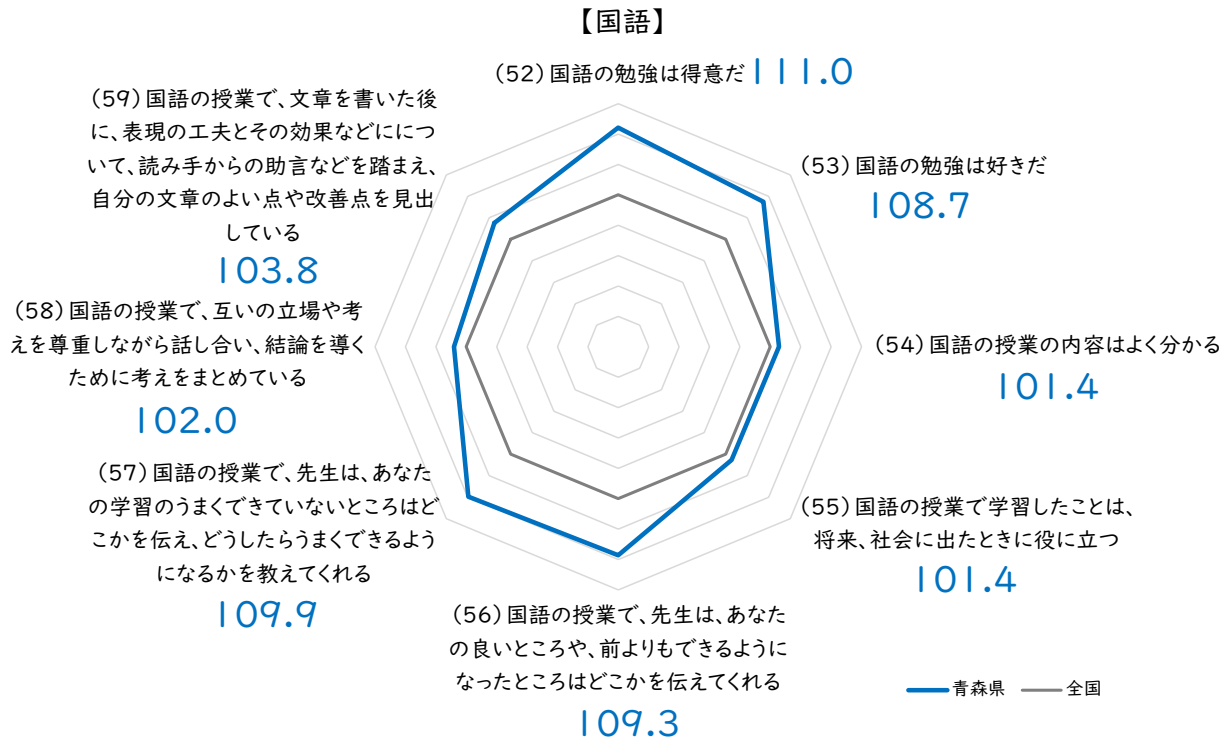
※「D 話すこと」のみ、全国（国公私立）での公表であった。



※公開問題のみの集計のため、参考値として分析をしている。

・領域別では、全ての項目で全国を大きく下回っている。
・評価の観点別、問題形式別では、全ての項目で全国を大きく下回っている。

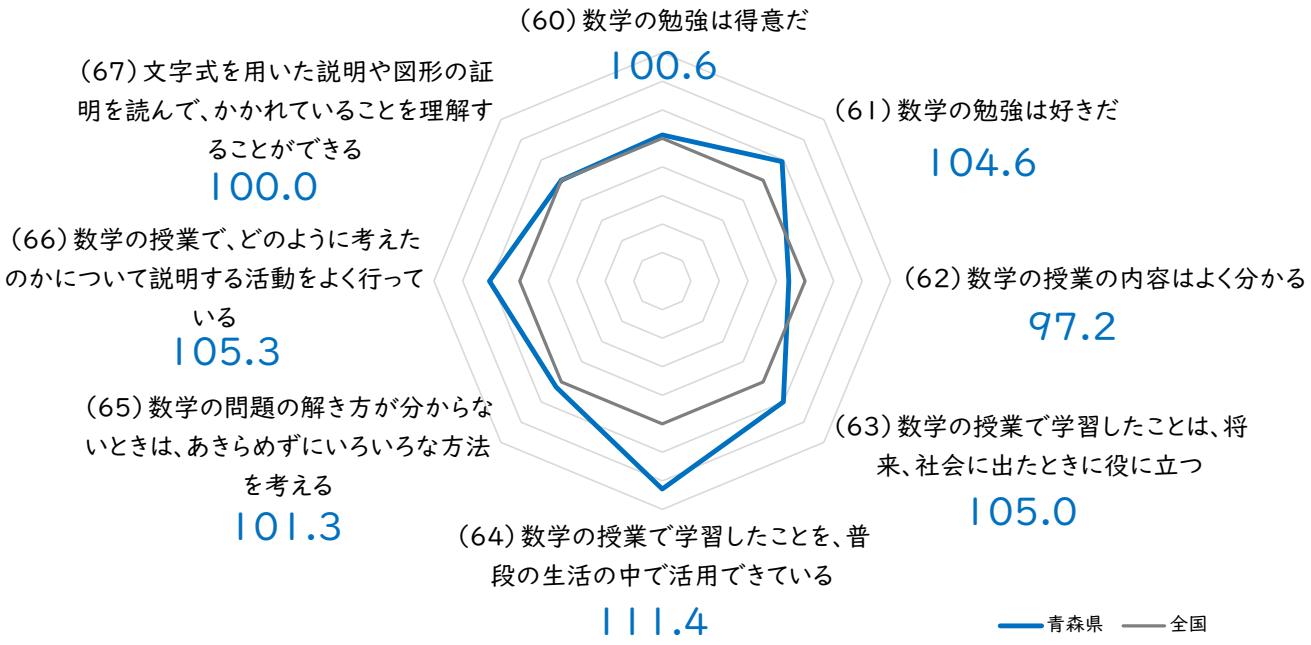
3 生徒質問調査



【国語】
・全ての項目で肯定的回答の割合が全国を上回っている。

○本県生徒の国語学習に対する興味・関心の高さや授業の理解度等は概ね良好な状況と捉えられる。この結果から、主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善が行われていると生徒は受け止めていることが考えられる。
○特に、個に応じた指導を含めた形成的評価に関する項目（(56)、(57)）においては、全国を大きく上回っていることから、指導と評価の一体化の視点による授業改善に取り組むことで、生徒の達成感や学ぶ意欲が高まっていると考えられる。また、その成果は、(52) (53) について、肯定的回答の割合が全国を大きく上回っている状況につながっていると考えられる。

【数学】



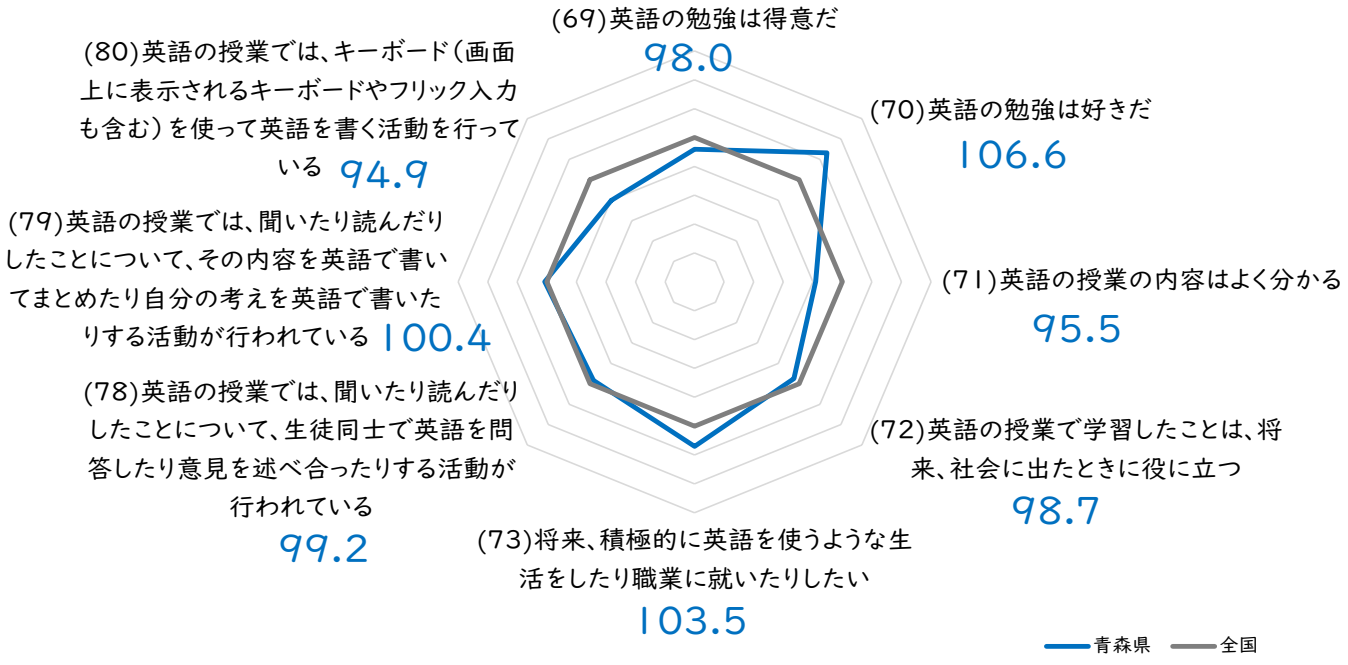
【数学】

・(62)「数学の授業の内容はよく分かる」については、肯定的回答の割合が全国を下回っているが、それ以外の7項目は全国と同じ又は全国を上回っている。

○(62)「数学の授業の内容はよく分かる」については、肯定的に受け止めている生徒の割合が全国を下回っていることから、これまでの指導のよさを生かしつつ、個別最適な学びの視点を取り入れ、一人一人の学習状況に応じた授業改善の取組が必要と考えられる。

○(66)「数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っている」と答えた生徒の割合は、全国を上回っていることから、自分の考えの根拠を明確にして、説明する活動が授業の中で行われていると、生徒が受け止めていることが考えられる。今後は、これまでの取組を生かしながら、全ての生徒が数学的な見方・考え方を働かせ、根拠を明確にして自分の考えを説明できるよう、指導の工夫をさらに進める必要があると考えられる。

【英語】

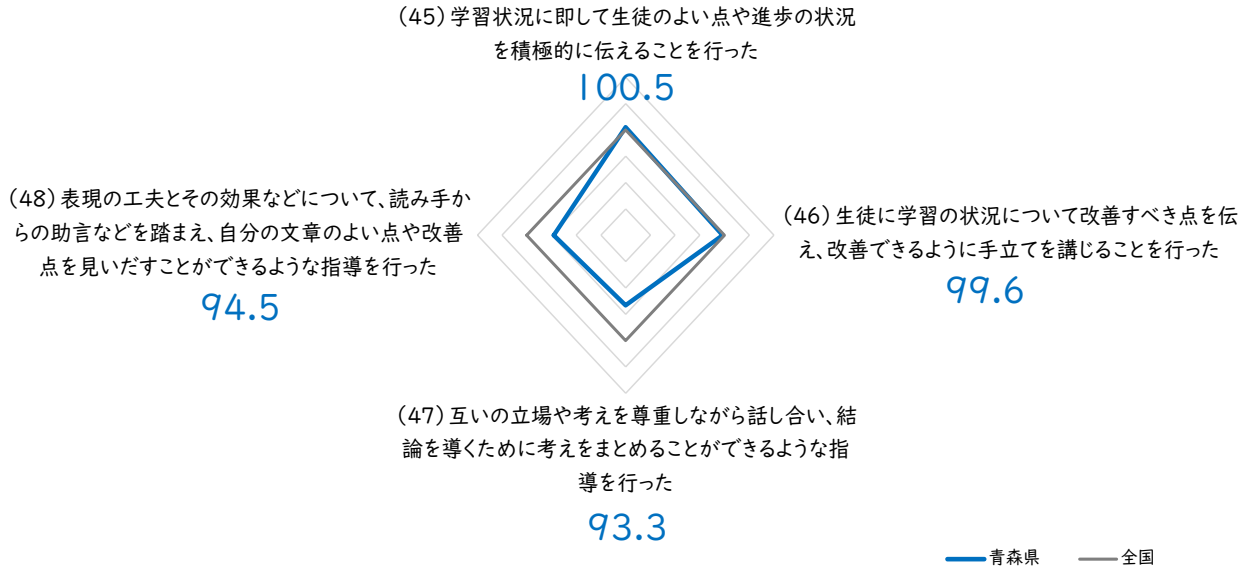


【英語】
・（70）「英語の勉強は好きだ」については、肯定的回答の割合が全国を大きく上回っている。
・（73）「将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたい」については、肯定的回答の割合が全国を上回っている。
・（71）「英語の授業の内容はよく分かる」については、肯定的回答の割合が全国を上回っている。
・（80）「英語の授業では、キーボード（画面上に表示されるキーボードやフリック入力も含む）を使って書く活動を行っている」については、肯定的回答の割合が全国を大きく下回っている。

○「英語の勉強が好きだ」という興味・関心の高さから、コミュニケーションを行う目的・場面・状況を設定するなど授業改善が行われていると考えられる。
○授業で聞いたり読んだりしたことについて、指導の目的に応じて効果的に ICT 機器等を活用して英語で書いてまとめる活動に発展させるなどの工夫が必要と考えられる。
○「英語の授業の内容はよく分かる」について、肯定的に受け止めている生徒の割合は、全国を下回っていることから、これまでの指導を大切にしながらも、 単元を通して身に付けさせたい資質・能力を生徒と共有しながら授業改善に取り組む必要があると考えられる。

4 学校質問調査

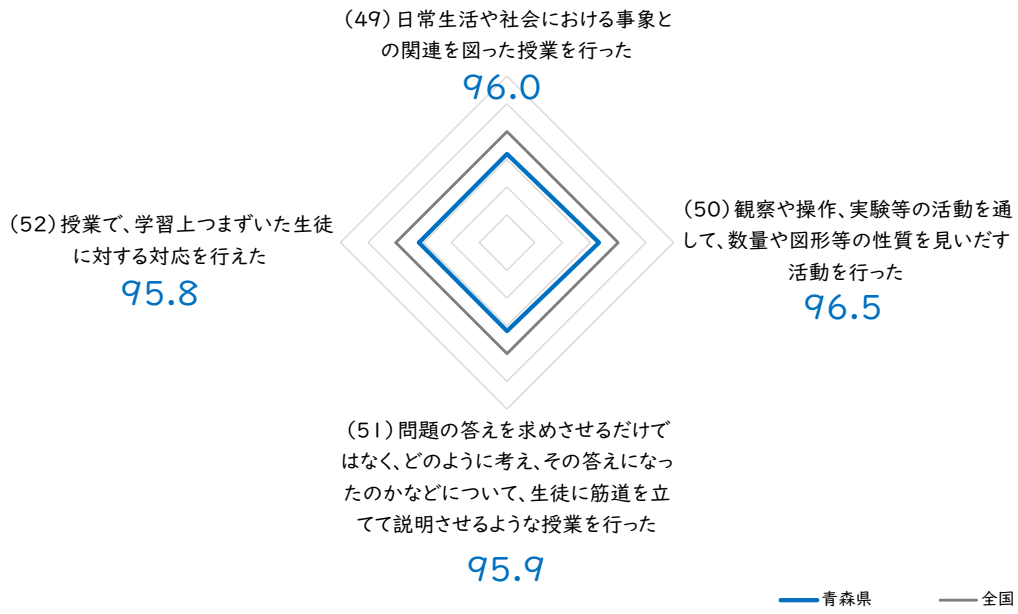
【国語】



【国語】
・(45)「学習状況に即して生徒のよい点や進歩の状況を積極的に伝えることを行った」については、肯定的回答の割合が全国を上回っている。
・(46)「生徒に学習の状況について改善すべき点を伝え、改善できるように手立てを講じることを行った」については、肯定的回答の割合が全国を下回っている。
・(47) 互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができるような指導を行った」、(48)「表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができるような指導を行った」については、肯定的回答の割合が全国を大きく下回っている。

○(47)に対応する生徒質問調査の(58)は102.0、(48)に対応する生徒質問調査の(59)は103.8である。これらを意図的に指導し、生徒の様子を適切に見取ってフィードバックしていくことで、学びの質を一層高めていくことができると考えられる。
○授業において育てたい資質・能力を明確にして生徒にも示し、生徒が自らの学習を調整できるよう、より一層の指導の充実に取り組む必要があると考えられる。

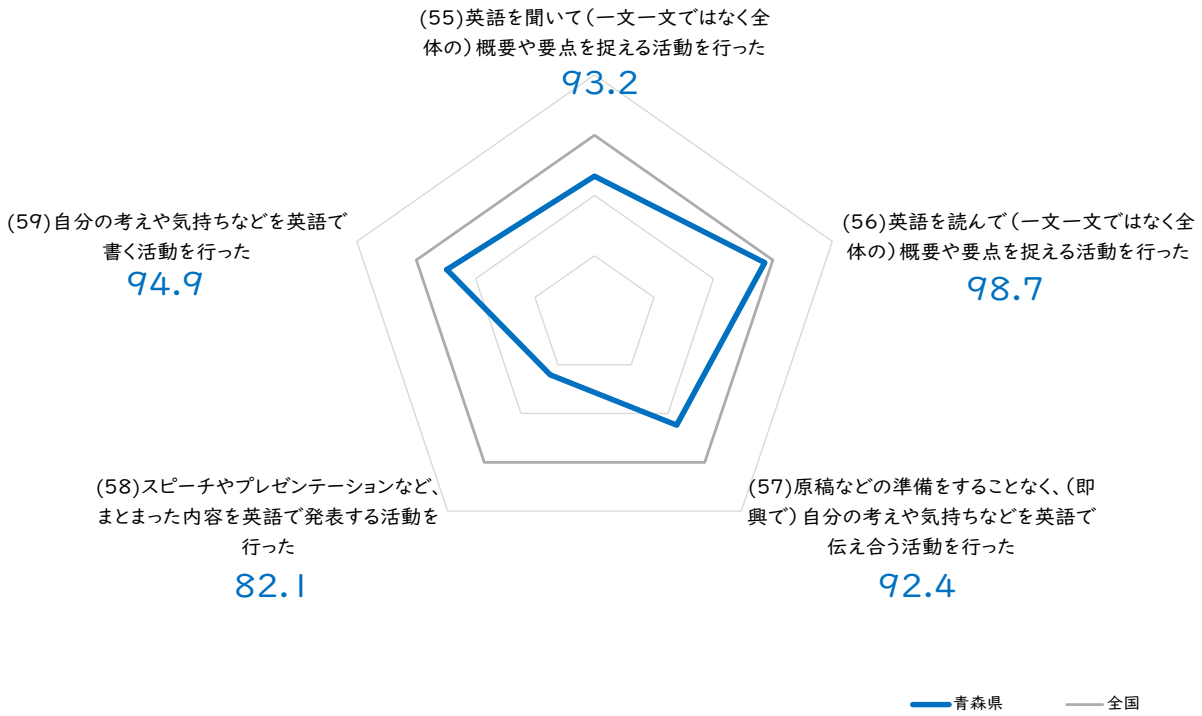
【数学】



【数学】
・全ての項目で肯定的回答の割合が全国を下回っている。

○授業において、学習上つまずいた生徒への支援を充実させるため、個別最適な学びの視点を取り入れ、一人一人の学習状況に応じた指導の工夫を図りながら、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に引き続き取組が必要と考えられる。

【英語】



【英語】
・全ての項目で肯定的回答の割合が全国を下回っている。

○身に付けさせたい資質・能力を明確にしたうえで、4技能5領域をバランスよく育てていく必要があるそのためにも、単元を通した授業づくりをより一層進めていく必要があると考えられる。
○Small Talk（話すこと［やり取り］）から話すこと［発表］や書くことにつなげるなど、統合的な言語活動を行うことが必要と考えられる。

5 指導改善のポイント

①国語

〔知識・技能〕

◆語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることに課題がある。〔大問4－ニ〕

4 説明的な文章を読んで理解したことをノートにまとめる

一 林さんは、――線部「ほうふつとさせる」を正確に理解するために、「ほうふつ」を国語辞典で調べました。次の【国語辞典に載っていた意味】を読むと、6段落に「ほうふつとさせる」と同じような内容を表す別の表現がいくつかあることに気が付きました。【国語辞典に載っていた意味】を参考にして、それらの表現のうちどれか一つを6段落の中から抜き出しなさい。

【国語辞典に載っていた意味】

ほうふつ【彷彿】❶はっきりと脳裏に思い浮かぶこと。よく似ていること。❷おぼろげなさま。はっきりしないさま。

国語辞典を参考にして、「ほうふつとさせる」と同じような内容を表す別の表現を文章中から抜き出す問題

［第1学年］ 知識及び技能

(1)言葉の特徴や使い方に関する事項

ウ 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。《語彙》

解答類型と反応率

正答（解答類型1、2）の反応率の合計は35.6%

1 次のいずれかのように解答しているもの
「ありありと映し出している」、「心に思い描く」「包括的に含んだイメージを得る」（12.8%）

2 上記1について、本文中の前後の語句を含んで抜き出したり、一部だけを抜き出したりして、解答しているもの（22.8%）

3 本文中から、上記1、2以外の表現を抜き出して、解答しているもの（41.4%）

99 上記以外の解答（5.0%）

0 無解答（18.0%）

○【解答類型1、2】は、語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることができている。【解答類型1】は、その際、その語句が文章の中で果たしている役割をより正確に理解できていると考えられる。

●【解答類型3】は、語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることに課題がある。

①「ほうふつとさせる」という語句の意味の一部を抜き出しているが、「ほうふつとさせる」の意味の全体を正確に捉えることができていない。【国語辞典に載っていた意味】から「はっきり」「おぼろげ」など「ほうふつ」の意味の一部だけを捉えて解答したものと考えられる。

②「ほうふつとさせる」の文脈上の意味を捉えられず、本文の6段落から同じような内容を表す別の表現を見付けることができなかったものと考えられる。

①の例 「ありありと」「包括的に」「イメージ」
②の例 「ことば以外の部分にもたくさんの意図を託している。」「たくさんの意図を託している。」

令和8年度全国学力・学習状況調査報告書（文部科学省・国立教育政策研究所）から抜粋

〔知識及び技能〕の課題と指導改善のポイント

語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることに課題がある。

語句の文脈上の意味を捉えることの指導に当たっては、まず、語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈における意味を具体的かつ個別的に捉えることが大切。

語句に着目し、その語句が文や段落においてどのような役割を果たしているかを捉え、その語句と文章中の他の語句との関係を考えることも重要。

生徒たちの語感を磨き語彙を豊かにしていくために、指導例（青森県教育委員会）を教材として授業で活用してみませんか。今年度は事象や行為、心情を表す語句を調べたり話し合ったりしながら吟味する学習活動について紹介しています。主体的・対話的で深い学びを実現できるよう学習指導を改善していきましょう。

生徒自身が、学習を通してどのような資質・能力を身に付けるのかを意識し、またできるようになった喜びを実感できるようにしたいですね。



《指導例》
（写真は令和7年度のもの）



【コラム】国語辞典を活用する

教師：国語辞典を使う際に、言葉の意味を確認するだけで終わりにしていませんか？国語辞典は単に言葉の意味を調べるためのものではなく、語彙を豊かにするための強力な味方とすることもできます。有効に活用するには、特に以下の3点に留意しましょう。

〔国語辞典の例〕



① 一つ一つの語句の意味には広がりがあり、国語辞典では❶――❷――のように示されています。国語辞典を活用するときには、一部の意味だけを見るのではなく、その言葉の全体を捉えることが大切です。その上で、文章の中でその語句がどのように使われているかを確認するなどして、その語句を自分の語彙にしていくことが大切です。

② 見出し語について、意味だけでなく、用法や例文に目を通すことも大切です。国語辞典に示されている用例には、その語句の実際の使用例を基に、自然な使い方、典型的な使い方が示されています。語句を学習するときには、意味を知るだけでは不十分であり、話や文章の中での使い方も合わせて確認しましょう。こうすることで、知っている言葉を使いこなせる言葉にし、自分の表現を豊かにすることができます。

③ 類義語、対義語などの関連語に目を向けることも大切です。国語辞典を使うたびに、関連する語句を自分の語彙の中に少しずつ増やしていくことで、語句同士のつながりが見えてきます。すなわち点が線となり、語彙が豊かになっていくのです。

このように国語辞典の特徴を理解して活用することは、言葉への理解を深め、自分の語彙を豊かにしていくことにつながります。漢和辞典や類語辞典など、他の辞典についてもその特徴を理解して活用できるようにすることが大切です。これからも意識して活用していきましょう。

②数学

〔本県の結果のポイント〕

○平均正答率が高い問題

「数と式」の平均正答率は他の領域の平均正答率より高く、また、評価の観点における「知識・技能」および選択式短答式問題の平均正答率も高い。

特に、6(1)問題場面における考察の対象を明確に捉えているかどうかを見る問題の正答率は、全国平均より高い。

問題番号	正答率	無解答率
1	84.3	0.4
6(1)	74.0	6.6
7(1)	74.2	6.2
9(2)	74.8	0.7

▼すべての領域の記述式の問題に課題が見られる。

特に、無解答率が25%を上回っており、問題解決の見通しを持つことができない生徒がいると推測される。

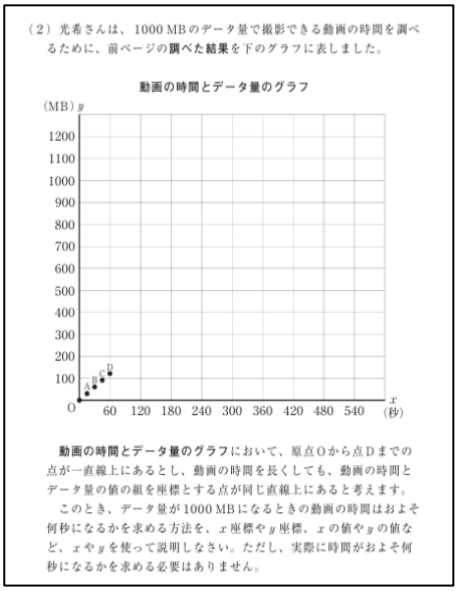
問題番号	正答率	無解答率
6(3)	42.7	25.6
7(2)	31.2	41.3
8(2)	36.4	25.1
9(3)	30.9	27.6

・結果のポイント①

7(2)数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。

指導改善のポイント

・関数として捉えられる二つの数量について、変化や対応の特徴を見いだし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察するとともに、その関係を数学的に表現する活動を充実させることが大切である。
・問題解決の見通しを立てる場面で、自分が考えた解決方法を表現したり、問題解決を振り返る場面で、どのような方法で解決したのかをまとめたりする機会を、日頃の授業から計画的に設定することが大切である。
・生徒の表現を出発点として、問い返しや比較、補足などの働きかけを通して、考えをより筋道の通った数学的な表現へと高める指導の工夫を行う必要がある。


（2）光希さんは、1000 MBのデータ量で撮影できる動画の時間を調べるために、前ページの**調べた結果**を下のグラフに表しました。

動画の時間とデータ量のグラフ

動画の時間とデータ量のグラフにおいて、原点Oから点Dまでの点が一直線上にあるとし、動画の時間を長くしても、動画の時間とデータ量の値の組を座標とする点が同じ直線上にあると考えます。

このとき、データ量が1000 MBになるときの動画の時間はおよそ何秒になるかを求める方法を、x座標やy座標、xの値やyの値など、xやyを使って説明しなさい。ただし、実際に時間がおよそ何秒になるかを求める必要はありません。

・結果のポイント②

8(2)作図によってできた図形について、見いだした事柄が成り立つことを、筋道を立てて考え、証明することに課題がある。

指導改善のポイント

・根拠を明らかにして説明し、互いの考えを伝え合う活動を通して、数学的な推論の過程を分かりやすく表現する力を育てることが大切である。
・証明の方針を立て、それに基づいて仮定から結論を導く推論の過程を、数学的に表現できるようにすることが大切である。
・生徒の不十分な表現も学びの過程として受け止め、その考えを生かしながら、より筋道の通った数学的な表現へと導く指導の工夫を行う必要がある。

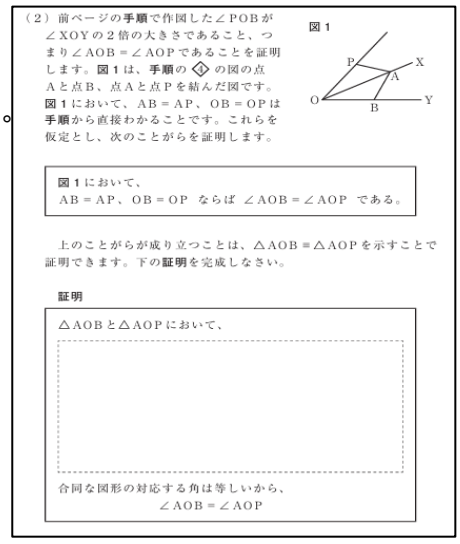

（2）前ページの**手順**で作図した∠POBが∠XOYの2倍の大きさであること、つまり∠AOB＝∠AOPであることを証明します。**図1**は、**手順**の◇の図の点Aと点B、点Aと点Pを結んだ図です。**図1**において、AB＝AP、OB＝OPは**手順**から直接わかることです。これらを仮定とし、次のことがらを証明します。

図1

図1において、
AB＝AP、OB＝OP ならば ∠AOB＝∠AOP である。

上のことがらが成り立つことは、△AOB≡△AOPを示すことで証明できます。下の**証明**を完成しなさい。

証明

△AOBと△AOPにおいて、

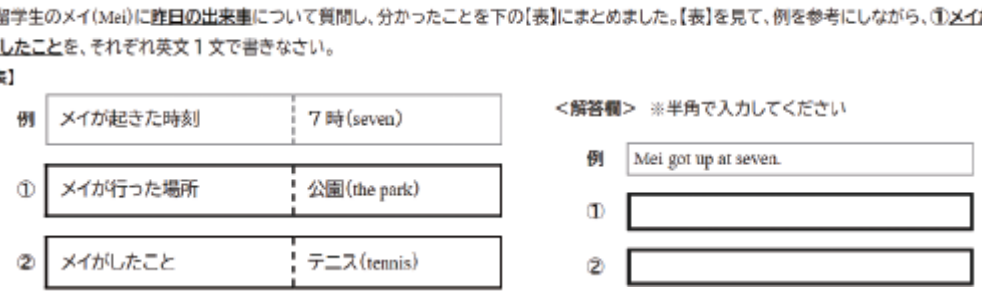
合同な図形の対応する角は等しいから、
∠AOB＝∠AOP

③英語

○特に全国との正答率の差が大きい問題

大問１１①〔書くことア：知識・技能〕・正答率　青森県49.5%（全国58.9%）

大問１１②〔書くことア：知識・技能〕・正答率　青森県44.2%（全国52.7%）



○【出題の主旨】音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる。

大問１１①

解答類型		反応率（県）	反応率（全国）	正答
1	不規則変化の過去形を用いて正しい語順で解答	38.1	45.2	◎
2	大文字・小文字の書き分けなどに誤りがあるが、解答類型１に準じて解答	6.8	8.6	◎
3	余分な語や抜けている語などの誤りがあるが、解答類型１に準じて解答	4.5	5.1	○
8	現在形や現在進行形、完了形などを用いて解答	25.1	19.0	
	その他誤答となる解答類型及び無解答	25.5	22.1	

大問１１②

解答類型		反応率（県）	反応率（全国）	正答
1	不規則変化の過去形を用いて正しい語順で解答	33.3	40.1	◎
2	大文字・小文字の書き分けなどに誤りがあるが、解答類型１に準じて解答	7.6	9.1	◎
3	余分な語や抜けている語などの誤りがあるが、解答類型１に準じて解答	3.3	3.5	○
8	現在形や現在進行形、完了形などを用いて解答	18.5	14.9	
	その他誤答となる解答類型及び無解答	37.3	32.4	

○授業改善のポイント

指導に当たっては、場面と関連付けて文法事項などを活用して英語を書く活動や、文法事項をまとめて整理するための時間を設定し、適切な表現を選択して英語を書く活動に取り組むなど工夫が求められる。また、それらの活動を支えるための視点として以下の点に着目して授業改善を図ることが望ましい。

□アウトプットの量（活動時間）を十分確保しているか

□生徒同士がピアフィードバックする際には確認する視点を与えているか

□言語活動における中間指導は適切に行われているか

□和文英訳だけでなく、メモをもとに英語を書く活動を行っているか

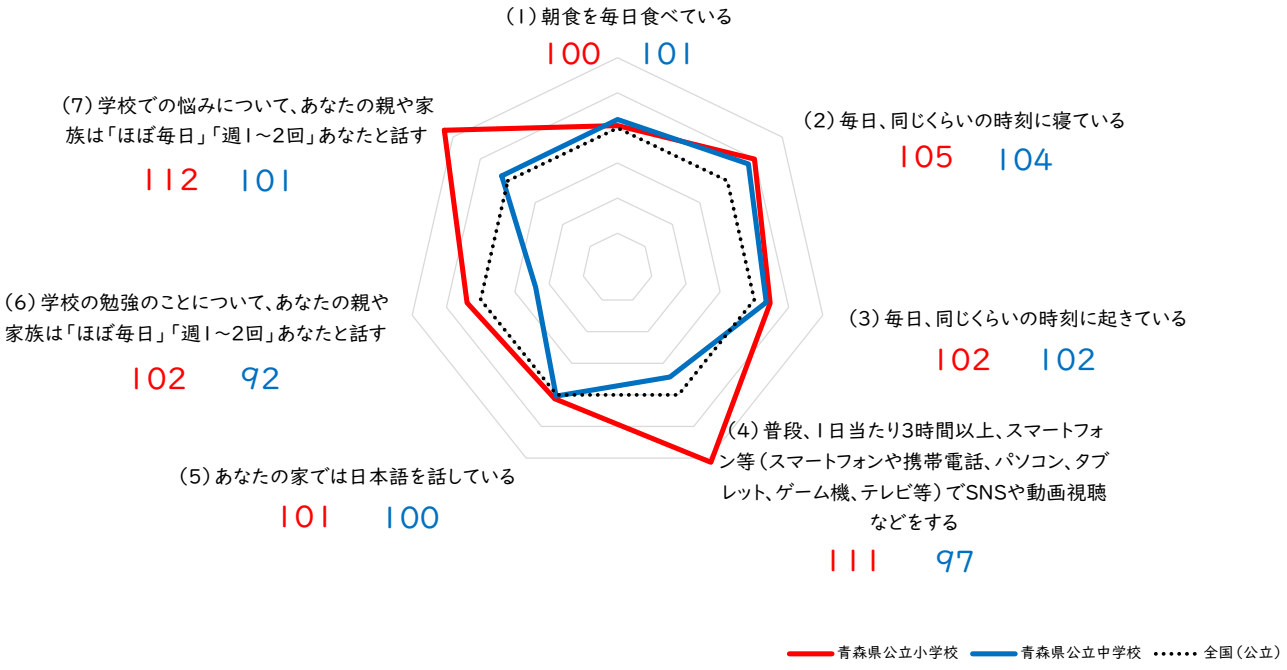
□Small Talk（話すこと［やり取り］）から書くことにつなげるなど、統合的な言語活動を行っているか

□ポートフォリオを活用して生徒が成長を実感できるような言語活動が行われているか

Ⅳ 質問調査

Ⅰ 児童生徒質問調査

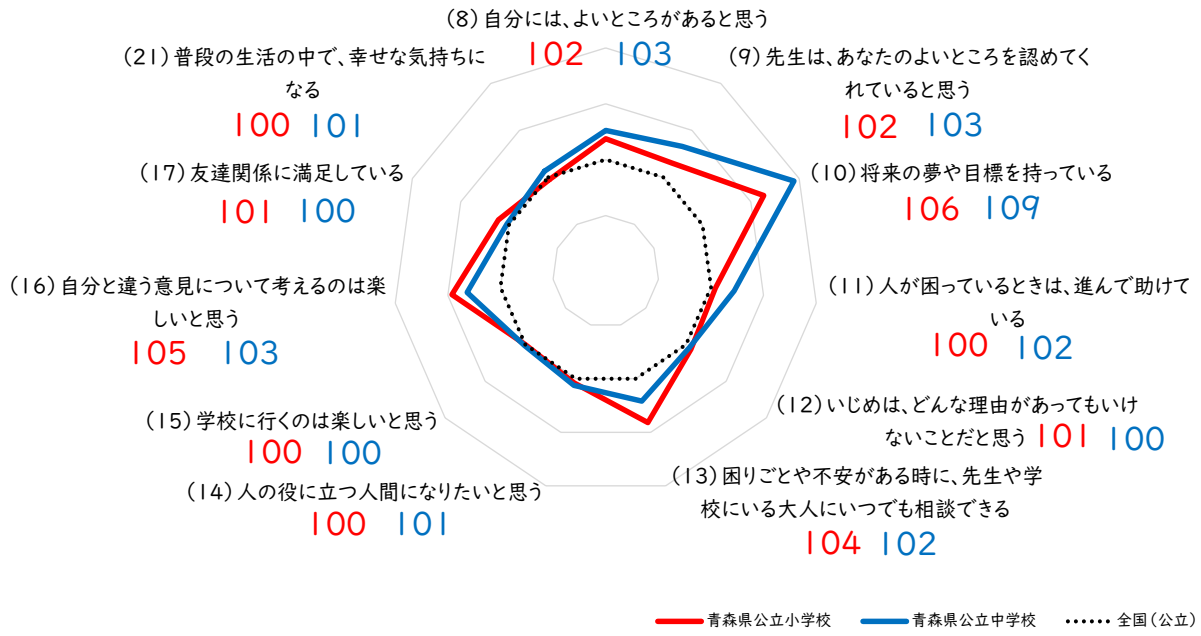
①基本的生活習慣等



・(2)「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」については、肯定的な回答した小学生の割合が全国を大きく上回っている。
・(4)「普段、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォン等でSNSや動画視聴などをするか」については、「4時間以上」「3時間以上」と回答した小学生の割合が全国を大きく上回っている。
・(7)「学校での悩みについて、あなたの親や家族は、どれくらいあなたと話すか」については、「ほぼ毎日」「週1～2回」と回答した小学生の割合が全国を大きく上回っている。
・(6)「学校の勉強のことについて、あなたの親や家族はどれくらいあなたと話すか」については、「ほぼ毎日」「週1～2回」と回答した中学生の割合が全国を大きく下回っている。

○規則正しい生活習慣の確立及びスマートフォン等との関わりについては、各学校及び各家庭において、引き続き取組を続けていただきたい。

②挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等

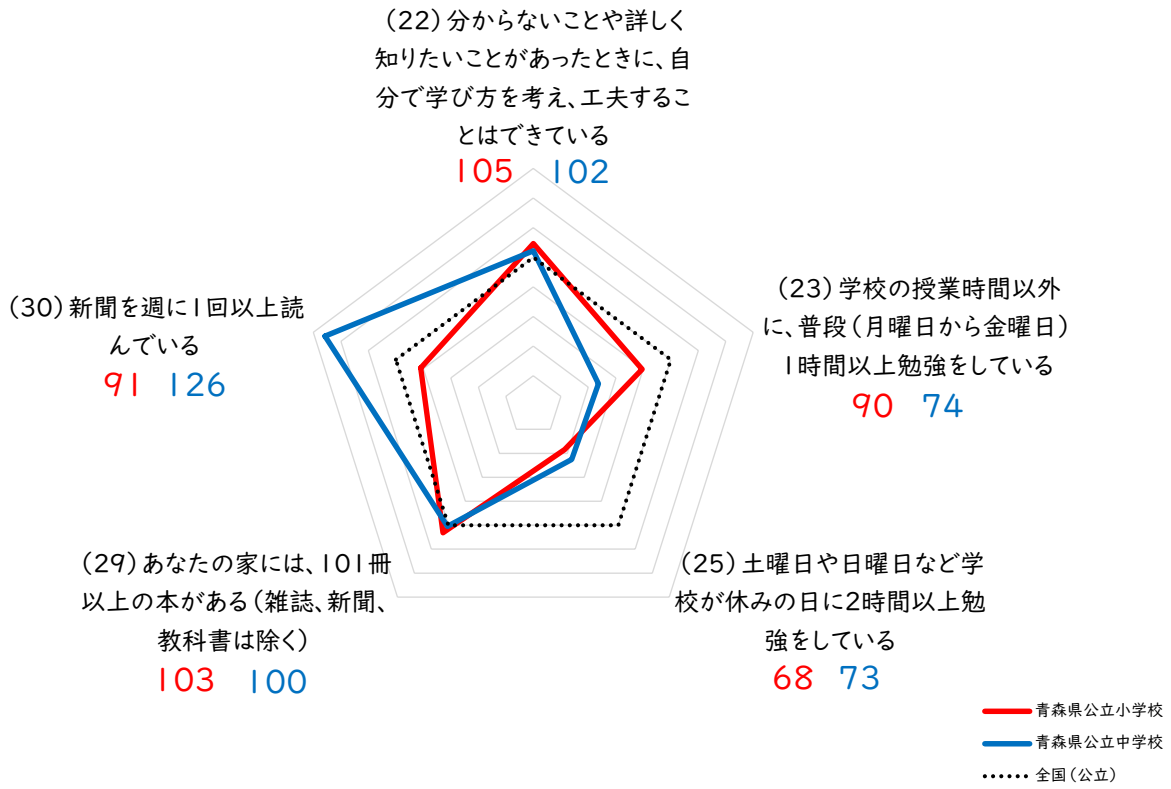


・全ての項目で、小・中学生ともに肯定的な回答が全国と同じ又は全国を上回っている。
・(10)「将来の夢や目標を持っている」については、小・中学生ともに肯定的な回答が全国を大きく上回っている。
・(16)「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う」については、小学生の肯定的な回答が全国を大きく上回っている。

○「将来の夢や目標を持つこと」については、各学校及び各家庭において、引き続き取組を続けていただきたい。

県総合社会教育センター
あおもり学インターネット講座・元気青森人 PowerUp コンテンツ活用表

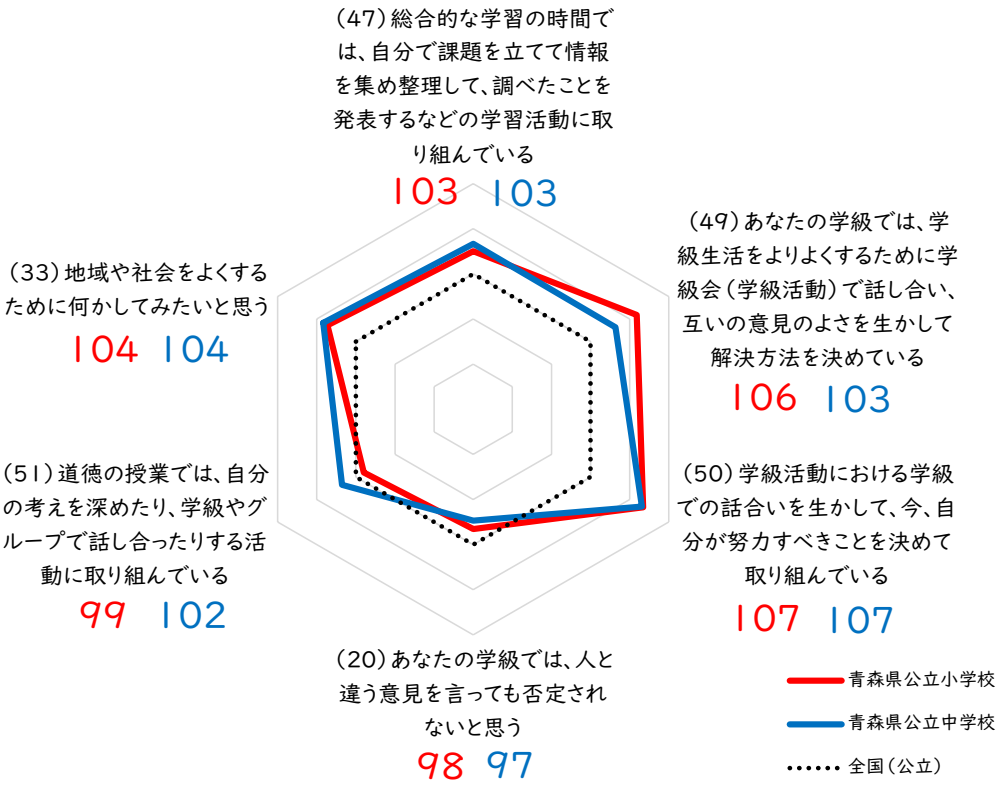
③学習習慣、学習環境等



・(22)「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできている」については、小学生の肯定的な回答が全国を大きく上回っている。
・(30)「新聞をどれくらい読んでいるか」については、「ほぼ毎日読んでいる」「週に1～3回程度読んでいる」と回答した中学生の割合が全国を大きく上回っている一方、小学生の割合は全国を大きく下回っている。
・(23)、(25)の学校の授業時間以外の学習時間に関する回答については、「平日は1時間以上」「休日は2時間以上」の割合が、小・中学生ともに全国を大きく下回っている。

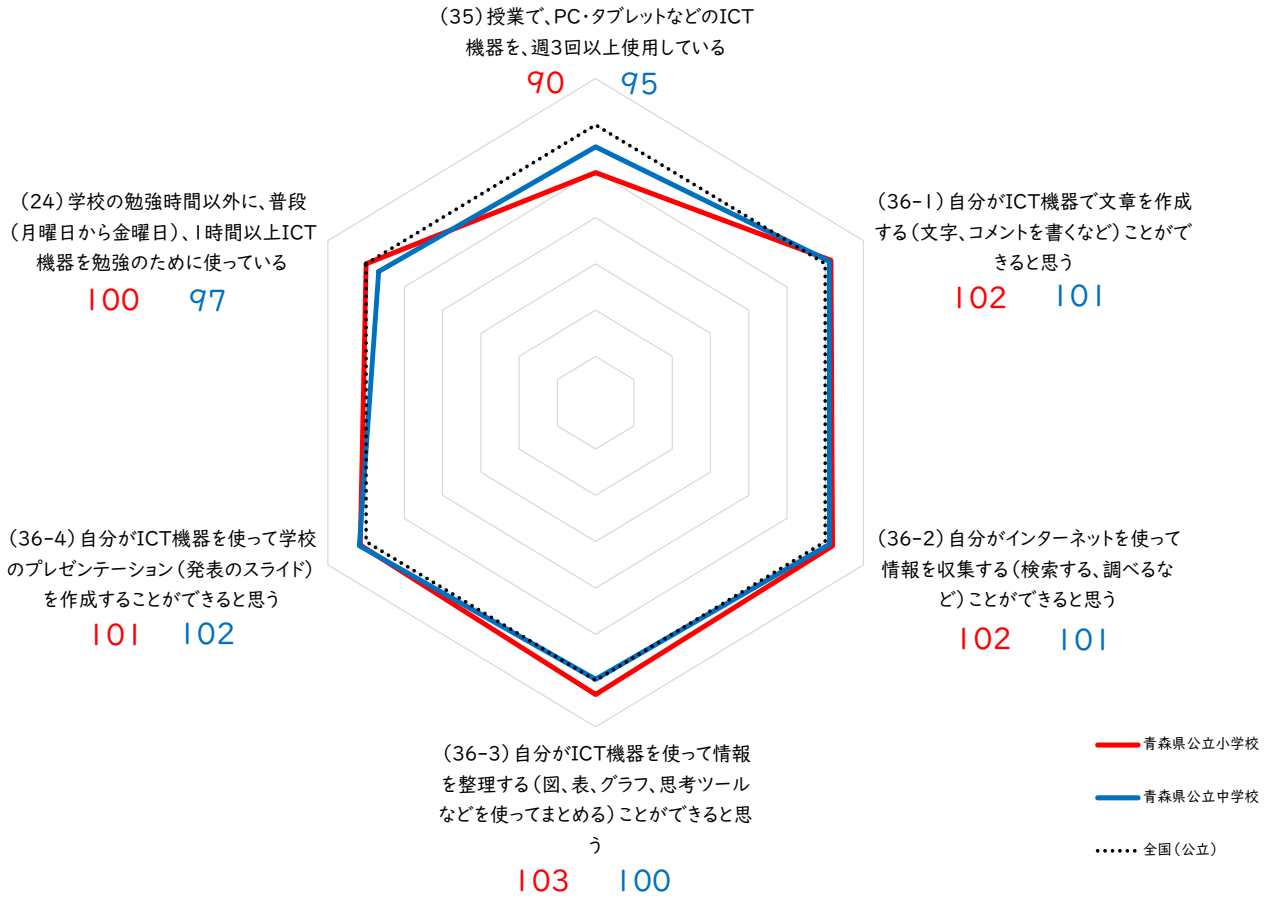
○学習習慣等の確立のためには、学校の授業時間以外に学習時間を設定する取組等も考えられる。

④総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科　道徳、地域や社会に関わる活動の状況等



・全6項目中の4項目で、小学生の肯定的な回答が全国を上回っている。
・全6項目中の5項目で、中学生の肯定的な回答が全国を上回っている。
・(49)「学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている」については、小学生の肯定的な回答が全国を大きく上回っている。
・(50)「学級活動における学級での話合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる(いわゆる学級活動(2)(3))」の2項目については、小・中学生ともに肯定的な回答が全国を大きく上回っている。
・(20)「あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思う」については、小・中学生ともに肯定的な回答が全国を下回っている。
・(51)「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」については、小学生の肯定的な回答が全国を下回っている。

⑤ICT を活用した学習状況

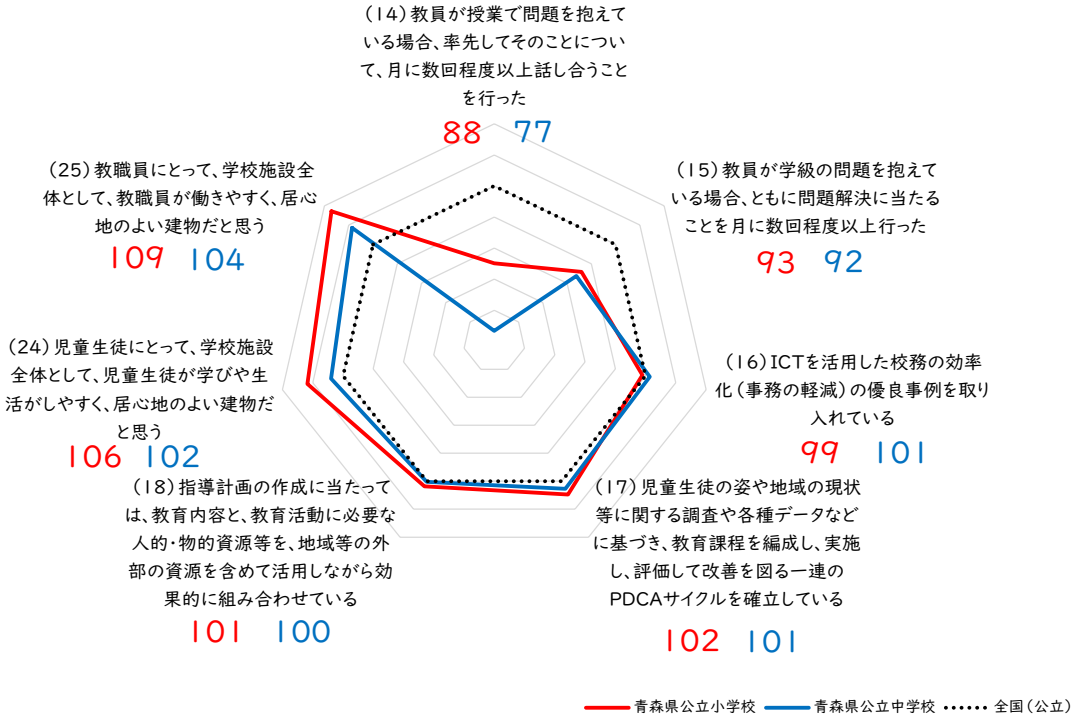


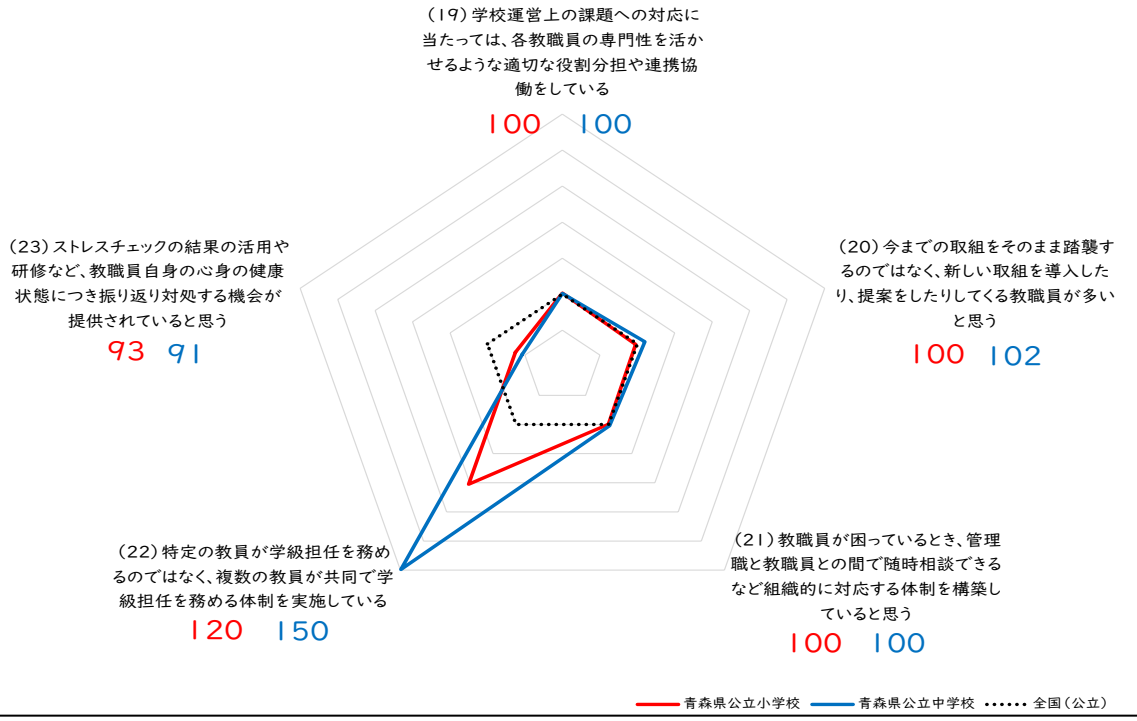
・全6項目中の5項目で、小学生の肯定的な回答が全国と同じ又は全国を上回っている。
・全6項目中の4項目で、中学生の肯定的な回答が全国と同じ又は全国を上回っている。
・(24)「学校の勉強時間以外に、普段(月曜日から金曜日)どのくらい ICT 機器を勉強のために使っているか」については、「3時間以上」「2 時間以上、3時間より少ない」「1時間以上、2 時間より少ない」を合わせた回答の割合が小学生は全国と同じ、中学生は全国を下回っている。
・(35)「授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用したか」については、前学年までに受けた授業で、「ほぼ毎日(1日に複数の授業)」「ほぼ毎日(1日に1回くらいの授業)」「週3回以上」を合わせた肯定的な回答が、小・中学生ともに全国を大きく下回っている。

文部科学省
ＩＣＴの効果的な活用に関する資料等について

2 学校質問調査

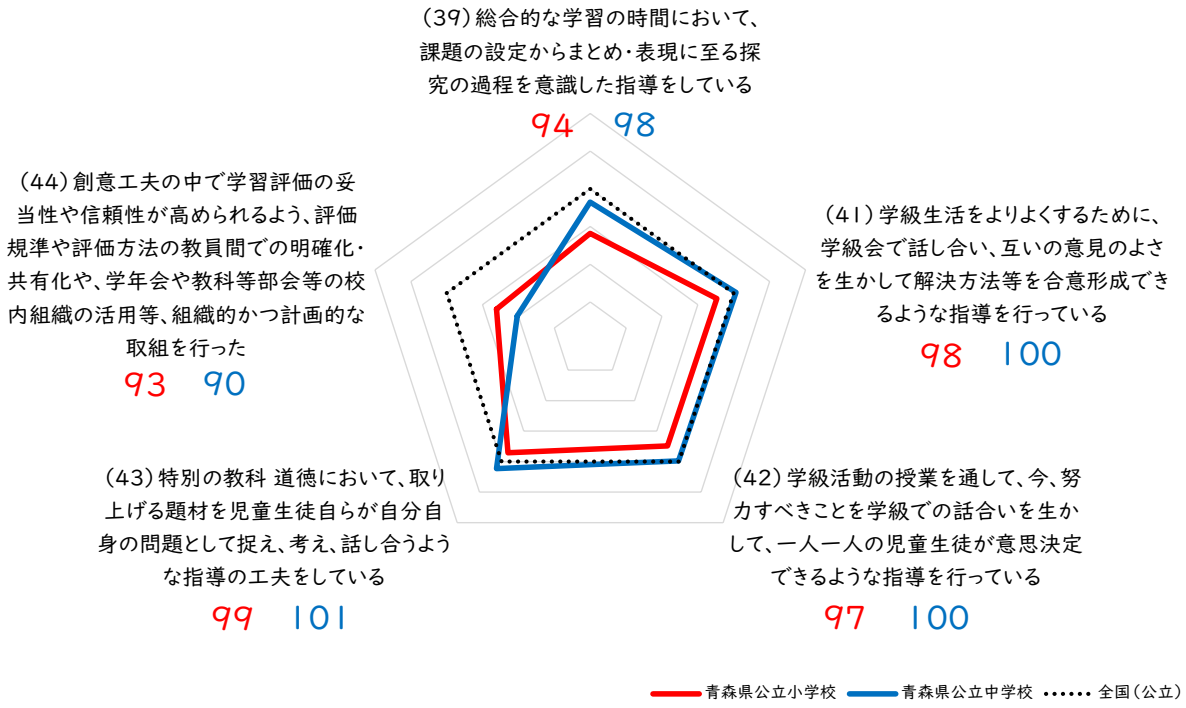
①学校運営に関する状況／教職員の資質向上に関する状況





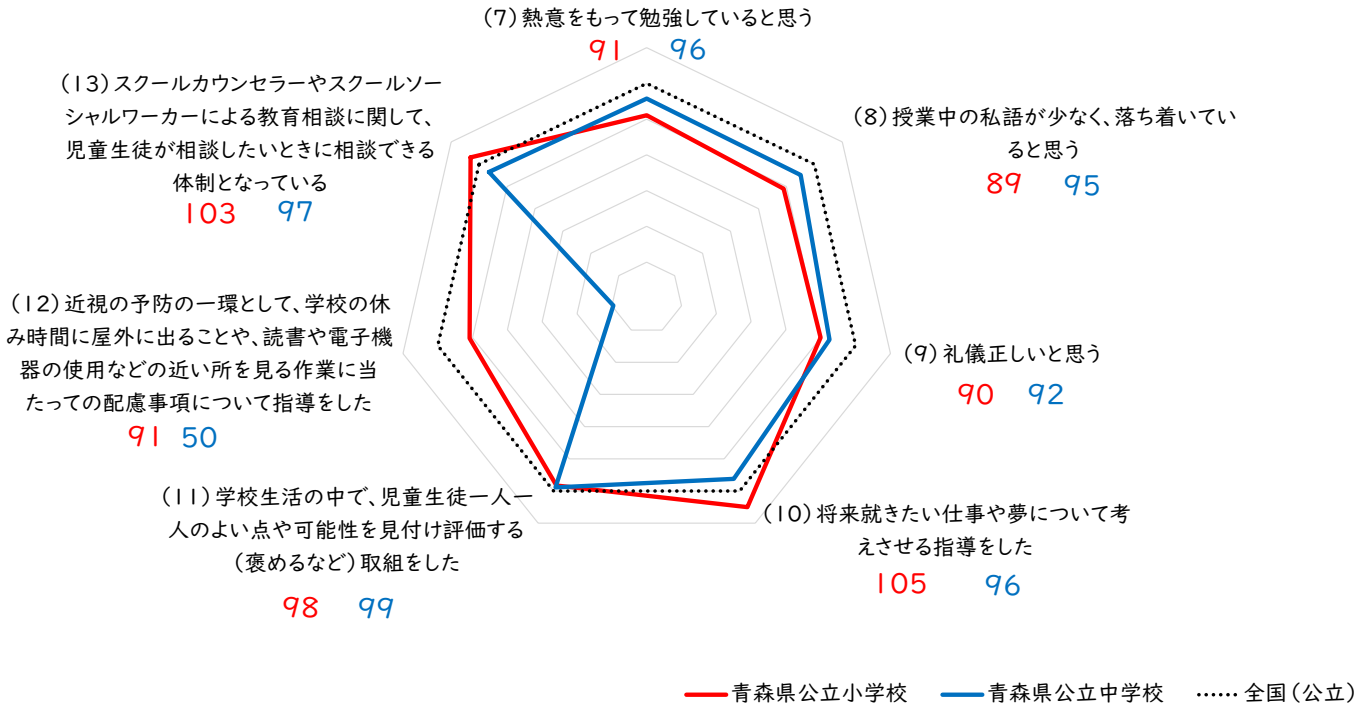
・（24）「児童生徒にとって、学校施設全体として、児童生徒が学びや生活がしやすく、居心地がよい建物だと思う」、（25）「教職員にとって、学校施設全体として、教職員が働きやすく、居心地のよい建物だと思う」については、小学校の肯定的な回答が全国を大きく上回っている。
・（22）「特定の教員が学級担任を務めるのではなく、複数の教員が共同で学級担任を務める体制を実施している」については、小・中学校ともに肯定的な回答が全国を大きく上回っている。
・（14）「教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて、月に数回程度以上話し合うことを行った」、（15）「教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを月に数回程度以上行った」、（23）「ストレスチェックの結果の活用や研修など、教職員自身の健康状態につき振り返り対処する機会が提供されている」については、小・中学校ともに肯定的な回答が全国を大きく下回っている。

②総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科 道徳の指導方法、学習評価



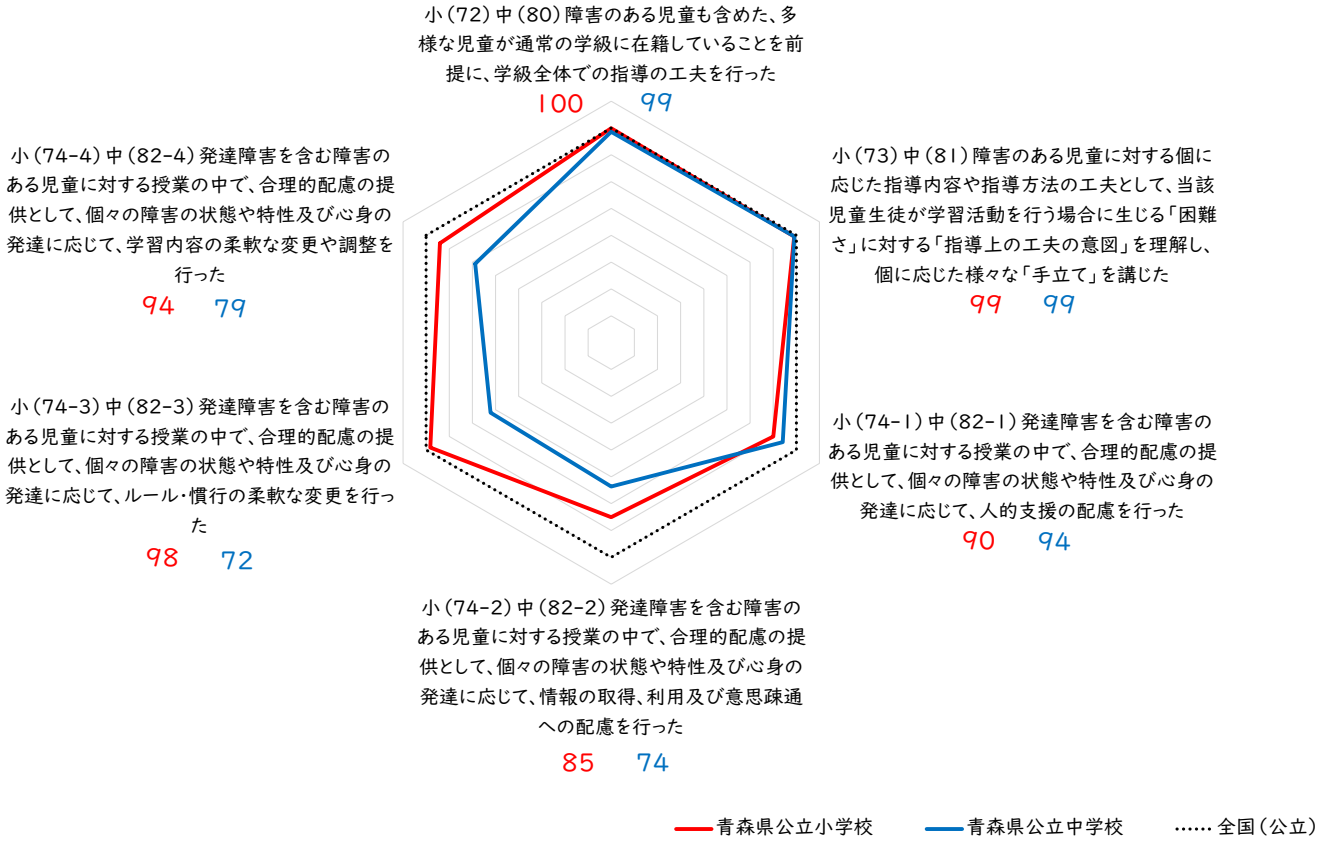
・全5項目中の3項目で、中学校の肯定的な回答が全国と同じ又は全国を上回っている。
・全ての項目で、小学校の肯定的な回答が全国を下回っている。
・特に、(39)「総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしている」については、小学校の肯定的な回答が大きく下回っている。(44)「創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、評価規準や評価方法の教員間での明確化・共有化や、学年会や教科等部会等の校内組織の活用等、組織的かつ計画的な取組を行った」については、小・中学校ともに肯定的な回答が大きく下回っている。

③生徒指導等



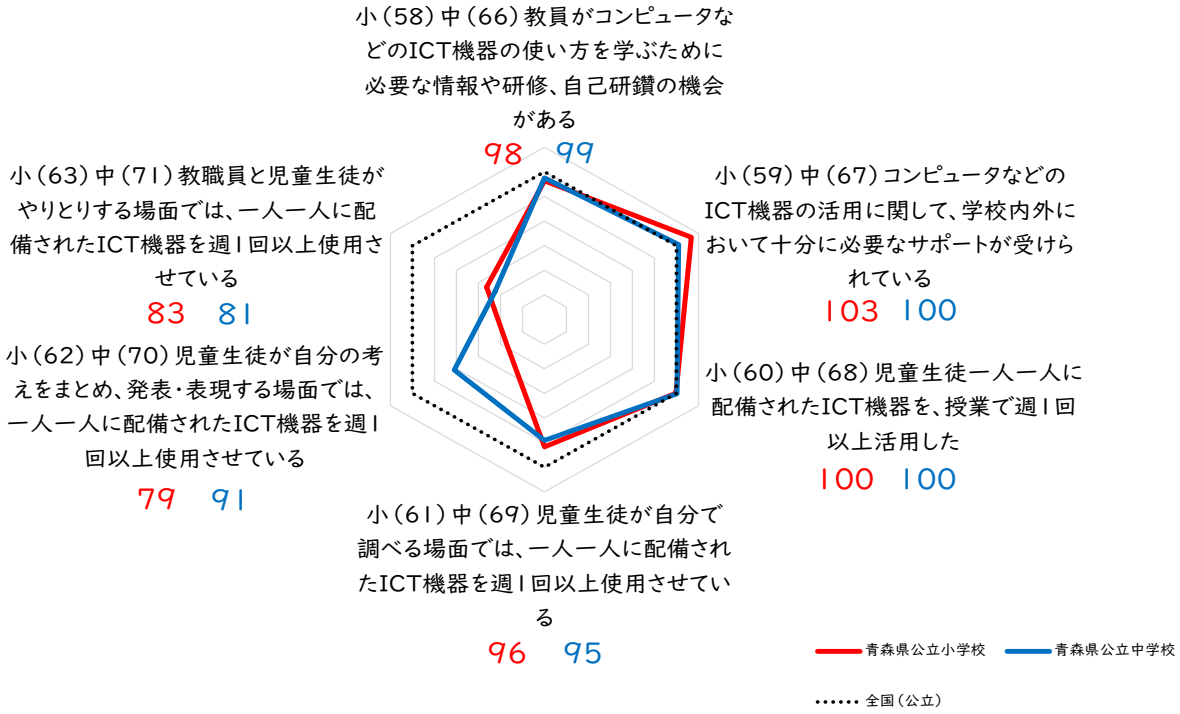
・(10)「将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした」については、小学校の肯定的な回答が全国を大きく上回っている。
・(13)「スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる教育相談に関して、児童生徒が相談したいときに相談できる体制となっている」については、小学校の肯定的な回答が全国を上回っている。
・全ての項目で、中学校の肯定的な回答が全国を下回っている。
・特に、(8)「授業中の私語がなく、落ち着いていると思う」(9)「礼儀正しいと思う」(12)「近視の予防の一環として、学校の休み時間に屋外に出ることや、読書や電子機器の使用などの近い所を見る作業に当たっての配慮事項について指導した」については、小・中学校ともに肯定的な回答が全国を大きく下回っている。(7)「熱意をもって勉強していると思う」については、小学校の肯定的な回答が全国を大きく下回っている。

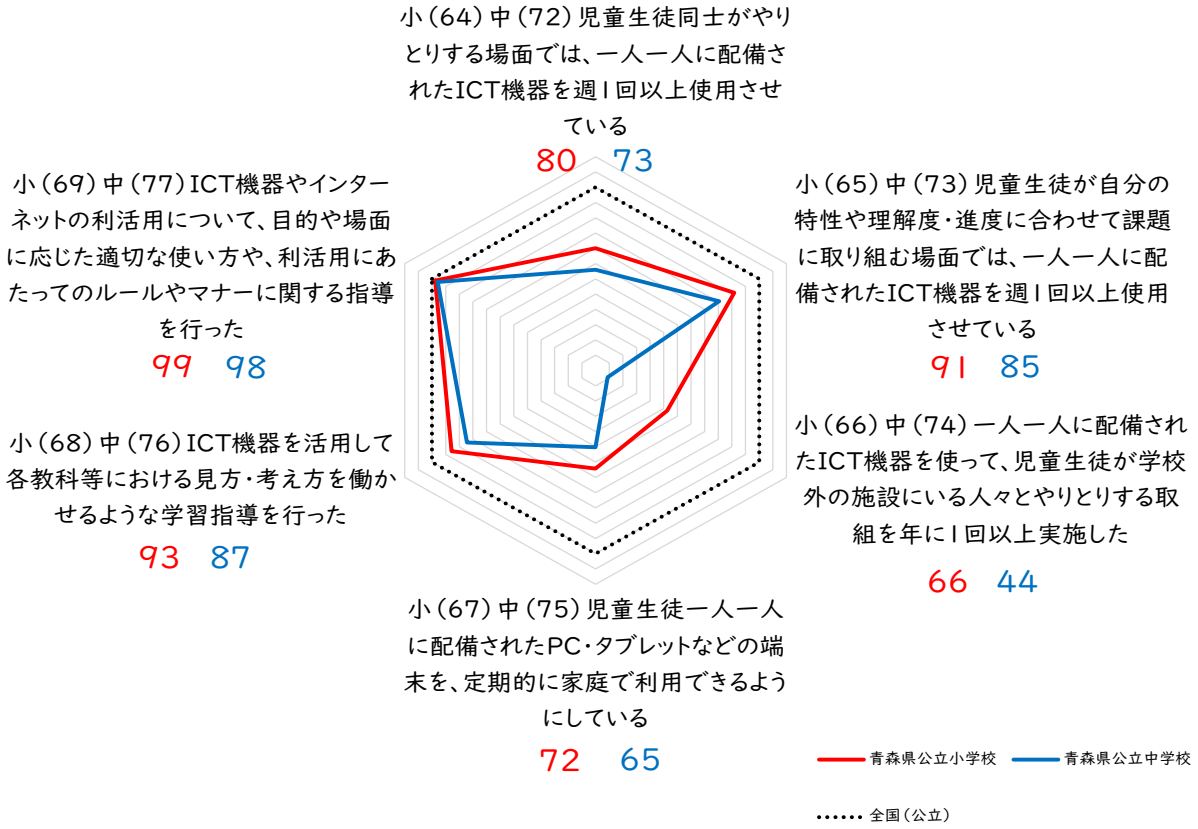
④特別な配慮が必要な児童生徒への指導



・小（72）中（80）「障害のある児童も含めた、多様な児童が通常の学級に在籍していることを前提に、学級全体で指導の工夫を行った」の小学校の肯定的な回答が全国と同じである。
・全ての項目で、中学校の肯定的な回答が全国を下回っている。特に、中（82－1）、（82－2）、（82－3）、（82－4）の4項目については、全国を大きく下回っている。
・小（74-1）、（74-2）、（74－4）の3項目については、小学校の肯定的な回答が全国を大きく下回っている。

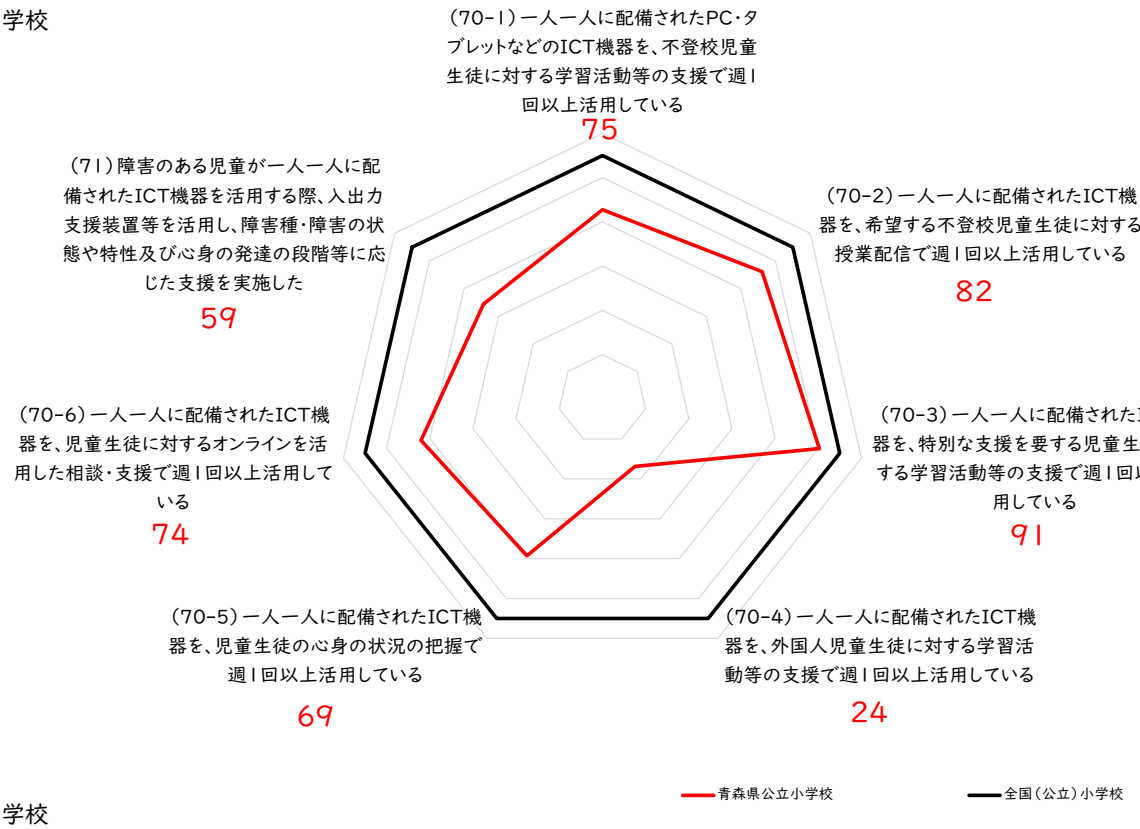
⑤ICT を活用した学習状況





・小（59）中（67）「コンピュータなどの ICT 機器の活用に関して、学校内外において十分に必要なサポートが受けられている」については、小・中学校ともに肯定的な回答が全国と同じ又は全国を上回っている。
・小（60）中（68）「児童生徒一人一人に配備されたICT機器を、授業で週1回以上活用した」については、小・中学校ともに肯定的な回答が全国と同じである。
・ICTを活用した学習状況の多くの項目については、小・中学校ともに肯定的な回答が全国を下回っている。

小学校



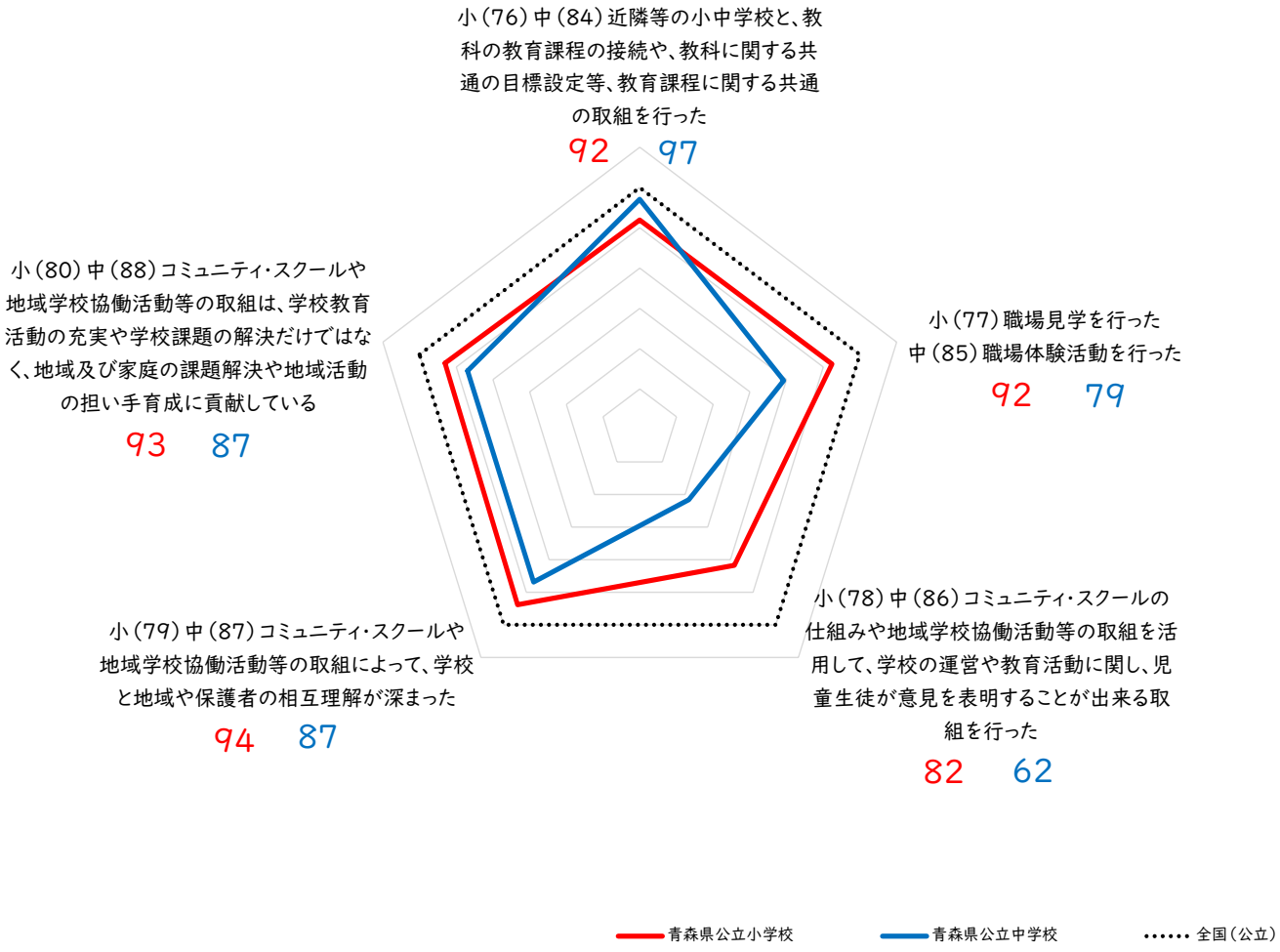
中学校



・全ての項目で、小・中学校ともに肯定的な回答が全国を下回っている。
・(70−4)、(70−6)、(71)、(78−4)、(78−6)、(79)の4項目については、全国を下回っているが、該当なしの割合が高いためである。

○ICT機器の活用については、各学校や各教員における効果的な活用が期待される。

⑥小学校と中学校の連携、家庭や地域との連携等

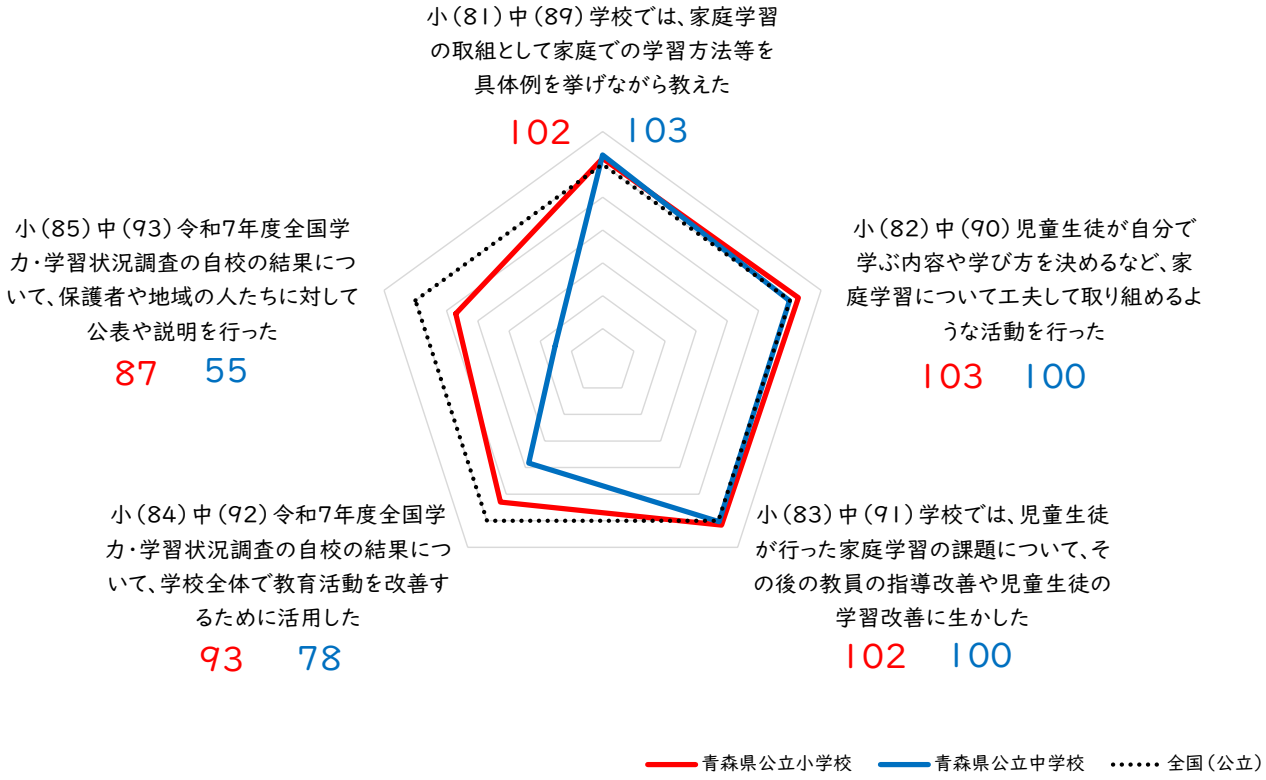


・全ての項目で、小・中学校ともに肯定的な回答が全国を下回っている。
・小（78）中（86）「コミュニティ・スクールの仕組みや地域学校協働活動等の取組を活用して、学校の運営や教育活動に関し、児童生徒が意見を表明することが出来る取組を行った」、小（79）中（87）「コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解が深まった」については、小・中学校ともに肯定的な回答が全国を大きく下回っている。
・小（77）「職場見学を行った」中（85）「職場体験活動を行った」については、小・中学校ともに肯定的な回答が全国を大きく下回っている。

〇小（77）「職場見学を行った」中（85）「職場体験活動を行った」については、各学校の実情により、対象学年での実施ではなく、他学年での実施も考えられる。

県教育庁生涯学習課
「生きる」「働く」「学ぶ」をつなぐ青森県のキャリア教育ポータルサイト

⑦家庭学習、全国学力・学習状況調査の結果の活用



・小（81）中（89）「学校では、家庭学習の取組として家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えた」については、小・中学校ともに肯定的な回答が全国を上回っている。
・小（82）中（90）「児童生徒が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、家庭学習について工夫して取り組めるような活動を行った」、小（83）中（91）「学校では、児童生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童生徒の学習改善に生かした」については、小学校の肯定的な回答が全国を上回っている。また、中学校の肯定的な回答が全国と同じである。
・小（84）中（92）、小（85）中（93）の全国学力・学習状況調査の結果の活用及び公表や説明については、小・中学校ともに肯定的な回答が全国を大きく下回っている。

○全国学力・学習状況調査の結果分析の活用が、各校における教育活動上の課題解決の一助になると考えられるため、各学校の実情に応じた取組が期待される。

文部科学省
調査結果の活用・分析の取組

国立教育政策研究所
全国学力・学習状況調査の分析にかかる研修資料動画